

課内保存用

※配付厳禁※

# 平成 27 年度 ウチナージュニアスタディー事業 報告書



# 目 次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. 概要                 | 1  |
| (1) ウチナージュニアスタディー事業概要 | 2  |
| (2) スケジュール            | 5  |
| (3) 総括・成果             | 6  |
| (4) プログラム運営体制図        | 7  |
| (5) 制作物など             | 8  |
| (6) 参加者名簿             | 9  |
| (7) グループ名簿            | 11 |
| (8) 講師紹介              | 12 |
| 2. 実施内容               | 13 |
| (1) 事前学習              | 14 |
| (2) 学習プログラム           | 16 |
| (3) アフターフォローイベント      | 41 |
| 3. 参加者感想文             | 43 |
| (1) 海外参加者             | 44 |
| (2) 国内参加者             | 52 |
| 4. 参考資料               | 61 |
| (1) アンケート結果           | 62 |
| (2) メディア掲載            | 73 |
| (3) 過去の受入実績           | 78 |

# 1. 概要

## (1) ウチナージュニアスタディー事業概要

### ①【目的】

沖縄県の沖縄県系人子弟を本県に招待し、県内の同世代の青少年と生活をともにしながら沖縄の歴史や文化等を学ぶことにより、海外移住者子弟の母県・沖縄との絆を深めるとともに、世界のウチナーネットワークを担う次世代の人材育成を図る。

### ②【事業内容】

本事業は、事前学習、学習プログラム及び報告会で構成する。

#### 事前学習（県内参加者及び県内青年リーダーのみ）

- ・平成27年7月4日（土）13：00～16：30
- ・平成27年7月18日（土）13：00～16：30

#### 学習プログラム、報告会（最終日）

- ・平成27年8月2日（日）～8月8日（土）

#### アフターイベント（県内参加者及び県内青年リーダーのみ）

- ・平成27年11月7日（土）～8日（日）  
JICA 沖縄主催 国際交流・協力フェスティバル  
※参加者が作成した、事業紹介パネル展示

### ③【参加者】

- ☆海外参加者 : 13～19歳までの海外県系人 15名
- ☆国内参加者 : 沖縄県内の中学・高校生 15名、県外の高中生 1名
- ☆青年リーダー : 海外 1名 県内 1名

合計 33名

### ④【学習プログラム概要】

#### (1) 自然学習

沖縄の自然や動植物等に触れ、その大切さを学ぶ。

#### (2) 歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を巡り、沖縄の歴史と琉球王朝時代のロマンに触れる。

#### (3) 文化学習（伝統工芸・芸能体験）

沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知り体験する。

#### (4) 平和学習

沖縄の戦跡等を巡り、戦争の歴史を学ぶとともに、平和について考える。

#### (5) 社会学習

沖縄での生活を経験し、沖縄の現状を知る。

#### (6) 移民学習（重点項目）

沖縄県の移民の歴史を学び、ワークショップを通して、ウチナーンチュアイデンティティを再認識する。

## ⑤【学習プログラム詳細】

### 事前学習（県内参加者対象、全二回）



県内参加者を対象として、ホストとして県外参加者を受入れる心構えを持たせることを目的に、学習プログラムが始まる一ヶ月前に、二回の事前学習を実施しました。移民社会についての学習、参加者自身が伝えたい「今の沖縄」をまとめたプレゼンテーション作り、ボランティアとしてサポートしてくれる事業のOBOGとの交流を行いました。

### 自然学習



ビーチでは、世界に誇る美しい海を満喫しながら、仲間との交流を深める時間を持ちました。リーダーを中心にレクリエーションを行ったり、海でゲームをしたり、みな全身で沖縄の自然に触れていました。

また、一週間滞在した糸満青少年の家では、亜熱帯の植物に囲まれた環境の中、広場を利用してバーベキューとキャンプファイヤーを行いました。そこでは、OBOGと交流しながら、ウチナーネットワークの繋がりを深め、国籍や言葉を越えての絆が生まれました。

### 歴史学習



かつて、小さい王国ながらアジア諸国との中継貿易で栄え、多様な文化を取り入れながら独特の文化を育んできた琉球王国。その成り立ちをバスで学習し、王国の中心だった首里城を見学しました。2名の琉球史研究家の解説の元、かつて琉球が日本や東アジアを結ぶ世界の架け橋となっていたことや、軍事力ではなく文化で評価されていたことを学びました。また、沖縄戦で大勢の命を助けた移民帰りの人の話を聞き、移民と沖縄戦の繋がりを知る機会にもなりました。

### 文化学習（伝統工芸・芸能体験）



同世代の中高生が演じる故郷の英雄をモチーフにした歴史劇・現代版組踊「肝高の阿麻和利」の稽古場を訪れ、振付を指導してもらいながら、沖縄の芸能を体験しました。さらに、参加者は滞在期間中に踊りを習得し、フェアウェルパーティーでは、衣装をまとめて発表しました。

また沖縄こどもの国では、昔ながらの民家を見学しながら、古くから衣類の染色に重宝してきた藍を使って藍染体験を行いました。

## 平和学習



今年には戦後70年。今も未収集の遺骨が残り、まだ戦争は終わっていないという見方もある中で、平和の礎を訪れて各参加者の家族の戦争の記憶を辿りました。そして、ひめゆり平和資料館を訪問し、戦争に巻き込まれ、犠牲となった同世代の若者たちに思いをさせ、彼らの心情に触れました。ルーツである沖縄の戦争を追体験した後は、世界の紛争や貧困の現状を考え、「現在の世界の平和構築に必要なものは何か」をディスカッションして、自分達ができる平和への取り組みを考えました。

## 社会学習



全プログラムの拠点となる糸満市は、平和学習の他にも、漁業や農業が盛んな町として知られています。糸満ならではの珍しい魚や野菜、それらを使ったユニークな加工品などが豊富に揃った道の駅いとまんを訪れ、特性を生かした地域振興を学びました。フォトスカベンジャーハントという手法を使い、「ターゲットリスト」にあるお題の写真を撮りながら、県民の生活の場を体験しました。

## 移民学習



沖縄移民の多様性を学び、アイデンティティーについて考え、世界のウチナーネットワークを知る機会を持ちました。まず、アルトゥーロ国際交流員から、おばあさんの体験を通してペルー移民について教えて頂きました。その後、「わたしはなに人？」と自分のアイデンティティーを考えるワークショップを行い、祖父母の時代から繋がる「ウチナーンチュ」である自分たちの関係と向き合いました。さらに、次世代のウチナーンチュネットワークを築いている WYUA の活動を学び、自分たちがそのネットワークを作る一員であることを意識させ、ネットワークの未来について考えました。

## 報告会



各グループで企画した、世界のウチナーンチュ大会に向けての取り組みを発表しました。若者ならではの視点で、自分たちが参加したい内容を取り入れました。

また、ウチナージュニアスタディーから得た多くの学びや、仲間と共に深めた絆について、保護者やホームステイ先、関係者に伝えし、その経験を今後どう還元していくのか、参加者一人一人が自分の進路と向き合って考えた、「行動宣言」を発表しました。

☆ウチナージュニアスタディー2015全行程

総合学習 移住学習 文化学習 式典、オリエンテーション等  
 平和学習 自然学習・交流企画 社会学習・歴史学習 バスでの移動

| 月日    | 8/2(日)<br>1日目  | 8/3(月)<br>2日目  | 8/4(火)<br>3日目  | 8/5(水)<br>4日目   | 8/6(木)<br>5日目  | 8/7(金)<br>6日目  | 8/8(土)<br>7日目   |
|-------|--|--|--|---|--|--|---|
| 7:00  |  | 起床、朝食  | 起床、朝食  | 起床、朝食   | 起床、朝食  | 起床、朝食  | 起床、朝食   |
| 8:00  |  | 移動<br>青少年の家→県庁   |  | シーツ 交換  | 移動<br>青少年の家→こどもの国  |  | 荷物準備、館内掃除   |
| 9:00  | 9:30 参加者受付<br>荷物はM1に保管<br>JICA沖縄国際センター<br>(※以下OIC)<br>《開式》@多目的室<br>《オリエンテーションⅠ》<br>*趣旨説明、資料配布<br>*スタッフ紹介<br>*参加者紹介 | 9:30 県庁裏敷訪問  | 9:00 《平和学習》<br>*世界の平和を考える<br>講師：宮崎大輔、丸山                    | 移動<br>青少年の家→道の駅   | 9:00 《総合学習》<br>*振り返り<br>*報告会準備   | 8:45 移動<br>青少年の家→OIC<br>《総合学習》<br>*行動宣言<br>*メッセージボンチョ<br>報告会準備 |   |
| 10:00 | 10:00 《オリエンテーションⅡ》<br>*沖縄紹介プレゼン<br>*班係決め   | 10:30 移動<br>県庁→首里<br>《歴史学習》<br>*首里城見学<br>ガイド：喜納大作、山城影子 | 10:00 移動<br>青少年の家→心の中心<br>《平和学習》<br>*心の平和を築く<br>講師：古賀直子、平野 | 10:00 《社会学習》<br>*糸満道の駅<br>フォトスカベンジャーハント<br>講師：糸満市観光協会   | 10:10 《社会・文化学習》<br>*庭染め体験<br>講師：吉岡由恵<br>(沖縄こどもの国)                      | 13:00 《総合学習》<br>*報告会準備   |   |
| 11:00 | 12:00 昼食(OIC)  | 13:00 昼食(外食)   | 13:00 昼食(外食)   | 12:00 移動<br>道の駅→青少年の家<br>昼食(青少年の家)  | 12:00 昼食(弁当)   | 12:00 昼食(青少年の家)  | 12:00 昼食(OIC)   |
| 13:00 | 14:00 《交流プログラム》<br>ボランティア企画  | 14:00 移動<br>首里→糸満青少年の家                                 | 14:00 《平和学習》<br>*平和の礎見学                                    | 13:30 《移住学習》<br>*WYUA活動のきっかけ<br>*ウチナーネットワークの活動事例<br>*ディスカッション：悩み、なり<br>たい自分を考え、共有する<br>講師：玉元三美美(WYUA) | 13:00 《文化学習》<br>*ふるさと園見学   | 14:00 移動<br>子どもの国→勝連城跡<br>《歴史学習》<br>勝連城跡<br>ガイド：神田青(JOCA)      | 13:00 報告会 & 修了式準備<br>リハーサル  |
| 15:00 | 15:30 《ウェルカムパーティー》<br>場所：OIC   | 15:00 《移住学習》<br>*移民史を学ぶフォトラン<br>ゲージ<br>講師：アルトゥーロCIR    | 15:00 移動<br>平和の礎→美々びーチ                                     | 16:00 《自然学習・交流企画》<br>*自然学習・交流企画<br>*バーベキュー<br>*自然学習・交流企画<br>*バーベキュー                                   | 14:00 移動<br>勝連城跡→きむたかホール<br>《文化学習》<br>*肝高の阿麻和利<br>バックステージツア<br>講師：平田大一 | 15:00 《文化学習》<br>*パフォーマンスWS<br>講師：TAO factory                   | 14:30 報告会準備完了、スタンバイ   |
| 16:00 | 16:30 *アイデンティティワー<br>クショップ<br>講師：沖縄NGOセンター   | 16:30 夕食(糸満青少年の家)                                      | 16:00 夕食(弁当)   | 17:00 移動<br>美々びーチ→青年の家  | 16:30 夕食(外食)   | 17:30 夕食(糸満青少年の家)  | 15:00 《報告会》<br>*一週間の振り返り<br>*成果発表<br>《修了式》<br>17:00 フェアウェルパーティー<br>場所：OIC |
| 17:00 | 18:00 移動<br>OIC→糸満青少年の家  | 19:00 《文化学習》<br>*パフォーマンスWS<br>講師：TAO factory           | 18:00 移動<br>美々びーチ→青年の家                                     | 18:30 夕食(外食)  | 18:00 夕食(糸満青少年の家)  | 19:00 海外参加者<br>ホームステイ先へ  |   |
| 18:00 | 19:30 宿泊場所に関する諸注意  | 20:30  | 21:00  |   |  |  |   |
| 宿泊地   | 糸満青少年の家  | 糸満青少年の家  | 糸満青少年の家  | 糸満青少年の家   | 糸満青少年の家  | 糸満青少年の家  |   |

### (3) 総括・成果

平成13年(2001年)に開催された「第3回世界のウチナーンチュ大会」のプレイベントとして始まった「ジュニアスタディーツアー」が「ウチナージュニアスタディ事業」の名称で継続され、今年で15回目の節目となりました。これまでに事業に参加した若者は総勢600名を越えており、若者のウチナーネットワーク形成に大きく寄与しています。今年度のウチナージュニアスタディ(以下、UJS)は、来年開催の「第6回世界のウチナーンチュ大会」のプレイベントとして位置づけられており、最終日の報告会では、大会を意識した若者ならではの企画を発表しました。

今年は、「より深い学び、より深い気付き、より深い交流」をモットーに、言葉の壁を越えた絆を作り、参加者が共有できる「沖縄」をつくることを目指してプログラムを構築してまいりました。

今年度事業の運営の方針とその成果は下記3点です。

#### \* 戦後70年の節目に、平和学習へ三つの視点

プログラムの拠点となる場所を糸満市に置き、より深い「平和」への学びを作りました。一つ目の視点は、「同世代」の戦争体験を追体験すること。ひめゆり平和祈念資料館を訪れ、体験者の話に耳を傾けました。二つ目は、「家族」の体験に思いを寄せること。あらかじめ調べてきた家族の戦没者の名前を、平和の礎を訪ねて探す時間を持ちました。三つ目は、「未来」に向けた平和構築のあり方を話し合うことです。平和を作るために必要なことは何か、話し合いました。これらの視点を取り入れた一連の学習内容は、参加者が普遍的な「平和」に対しての考えを深めるきっかけとなり、海外参加者からは、もっと沖縄戦について学びたいとの声が多く出され、国内参加者からも、平和について率直に意見交換できたことで、一番印象強いプログラムだったとの感想が出ていました。

#### \* 次の再会を目指して、「世界のウチナーンチュ大会」のUJS企画の提案

一週間様々な学びや交流を通して、参加者たちは次世代のウチナーネットワークの担い手としての意識が高まっていきました。最終日の報告会では、来年、またはその次の世界のウチナーンチュ大会に、どのようなイベントがあれば参加したいか、自分達に関わりたい企画を提案しました。報告会には、第6回世界のウチナーンチュ大会の事務局長も出席頂き、若い発想で企画された内容を興味深く聞いて頂きました。

#### \* 事業後の学びの場の提供、アフターフォローの充実

プログラムの最後に、各自「行動宣言」を行いました。『語学を上達させたい』『沖縄文化を学び伝えていきたい』『自分の見つけた課題を克服していく』など、全員が前向きな宣言をしていました。そうしたプランの実行のために、私たちはネットワーク作りを支援し、スキルアップの場を提供しています。一週間のプログラムで感じたウチナーンチュとしての誇りや、ウチナーネットワークの絆を持って、今後参加者がグローバルな視点を持って沖縄を見ていき、文化の発展や継承に貢献していけるように、今後もサポートしていきたいと思えます。

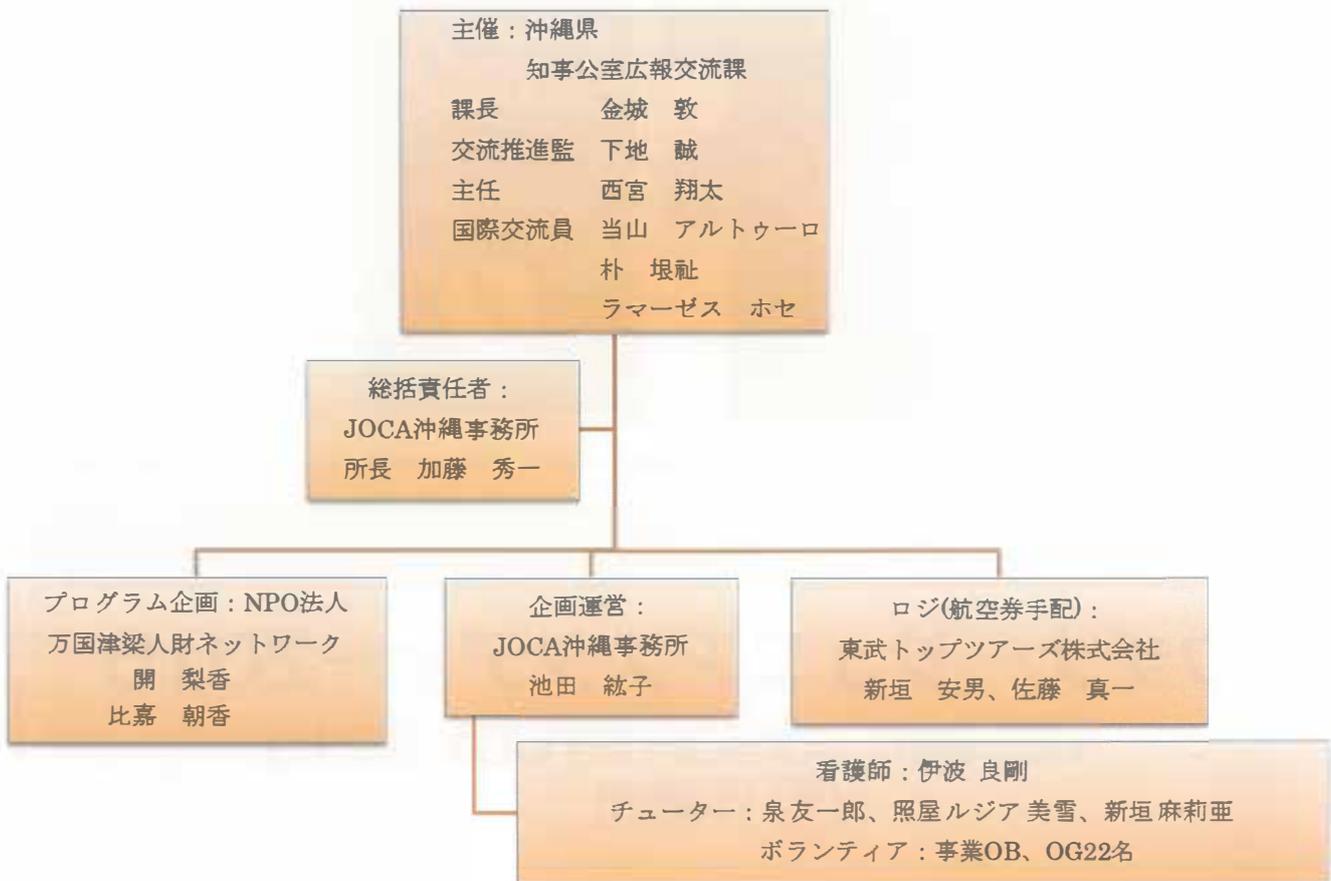
## (4) プログラム運営体制図

沖縄県からの受託事業者として、(公社)青年海外協力協会沖縄事務所、(NPO 法人)万国津梁人財ネットワーク、東武トップツアーズ(株)沖縄支店が共同企業体を形成し、沖縄県と連携しながら本プログラムの運営を行った。

公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)は、今年派遣50周年を迎える青年海外協力隊の帰国ボランティアを中心に、個人会員及び全都道府県OB会等の団体がその構成メンバーとなっています。沖縄事務所においては、JICA 沖縄国際センターでの開発教育支援事業に6年間携わっており、日本と世界の繋がりと課題、それを解決するための方法について、参加者一人一人の自己学習意欲を引き出す“場づくり”をモットーとし、「次世代のグローバル人材」として意識を持てるようなプログラムを実施しています。

NPO 法人万国津梁人財ネットワークは、国際的に活躍できる人材育成と、世界各国との文化交流・ビジネス交流拠点としての沖縄の発展に寄与することを目的として設立されたNPO 法人であり、アジア青年の家、アジアユース人材育成プログラム等を手掛け、沖縄とアジアの若者の人材育成活動を展開している。

東武トップツアーズ株式会社は、「お客様満足度100%+α」を合言葉に、満足度向上を目指し、県内における人材育成や環境整備、新しいかたちのエンターテイメント企画開発といった様々な要素を含んだ観光産業事業に取り組んでいる。特に観光立県沖縄においては、沖縄の未来を見据え、行政・各関係機関と相互連携をはかる真の観光振興事業の展開に向けた事業展開に力を注ぎ、観光産業クラスターとして、また観光産業界のオピニオンリーダーとしてグローバルな視点に立った事業を展開している。



## (5) 制作物など

ウチナージュニアスタディー事業の趣旨を踏まえ、参加者の一体感の醸成や沖縄の文化、ウチナーネットワークを伝えることをコンセプトに下記のような携行品を作成した。

- ① 名札（青：県内参加者 オレンジ：海外参加者）



- ② ポロシャツ（グリーン：参加者 紺：スタッフ）



- ③ 横断幕

ウチナージュニアスタディー2015  
 UCHINA JUNIOR STUDY 2015  
 沖縄県

## (6) 参加者名簿

### 海外参加者 16名

| No | 氏名                  | アルファベット                      | 年齢 | 国名        | 県人会名          | 趣味                  |
|----|---------------------|------------------------------|----|-----------|---------------|---------------------|
| 1  | ジョセフ 海 レッドモンド       | JOSEPH KAI REDMOND           | 17 | アメリカ合衆国   | ワシントン州沖縄県人クラブ | 音楽                  |
| 2  | クック エリカ             | COOK ERIKA                   | 18 | アメリカ合衆国   | インディアナ沖縄県人会   | 絵を描くこと、読書           |
| 3  | 安座間 キミエ             | KIMIE AZAMA                  | 16 | アメリカ合衆国   | ニューヨーク沖縄県人会   | コーラス、ハイキング、演劇       |
| 4  | 熱田 仁奈               | ATTA NINA                    | 19 | ボリビア多民族国  | ボリビア沖縄県人会     | バレーボール              |
| 5  | 山城 太一               | YAMASHIRO TAICHI             | 16 | ボリビア多民族国  | ボリビア沖縄県人会     | スポーツ全般              |
| 6  | アラカキ アキラ            | ARAKAKI AKIRA                | 18 | ペルー共和国    | ペルー沖縄県人会      | 合気道、エイサー、三線         |
| 7  | イシサカ イレイジョ ニコル ジュン  | ISHISAKA IREJO NICOLE JUUN   | 19 | ペルー共和国    | ペルー沖縄県人会      | エイサー                |
| 8  | オカネク ツツミ ケンタ        | OKANEKU TSUTSUMI KENTA       | 15 | メキシコ合衆国   | メキシコ沖縄県人会     | サッカー、ギター、料理、演技      |
| 9  | 知念 アマンダ ノエミ カワカミ    | CHINEN AMANDA NOEMI KAWAKAMI | 15 | ブラジル連邦共和国 | ブラジル沖縄県人会     | バイオリン               |
| 10 | 高安 ジュリオ ヒロマサ        | TAKAYASU JULIO HIROMASA      | 17 | ブラジル連邦共和国 | ブラジル沖縄県人会     | フットサル               |
| 11 | 祖堅 ラケル アケミ          | SOKEN RAQUEL AKEMI           | 13 | ブラジル連邦共和国 | カンポグランデ沖縄県人会  | エイサー                |
| 12 | ウエハラ アグスティン エセキエル   | UEHARA AGUSTIN EZEQUIEL      | 18 | アルゼンチン共和国 | 在亜沖縄県人連合会     | エイサー、サッカー           |
| 13 | 安慶名 ミチ カリナ          | MICHELLE KARINA AGENA        | 15 | アルゼンチン共和国 | 在亜沖縄県人連合会     | エイサー、三線             |
| 14 | 金城 巴奈               | ONG AI LIN(KINJO HANA)       | 13 | マレーシア     | マレーシア沖縄会      | ダンス                 |
| 15 | 宋 宇成                | SONG WOOSUNG                 | 14 | 大韓民国      | 韓国沖縄県人会       | 歌、ギター、サッカー          |
| 16 | <青年リーダー><br>岸本 ネスター | KOICHI KISHIMOTO             | 19 | アメリカ合衆国   | ワシントンDC沖縄会    | 空手、陸上、ピアノ、サッカー、エイサー |

県内参加者 17 名

| No | 氏名                | ふりがな      | 学校名         | 学年 | 趣味                               |
|----|-------------------|-----------|-------------|----|----------------------------------|
| 1  | 饒平名 美妃            | よへな みき    | 普天間中学校      | 3  | テニス、ピアノ、珠算、音楽鑑賞                  |
| 2  | 神里 晏朱             | かみざと あんじゅ | 昭和薬科大学附属中学校 | 3  | ピアノ                              |
| 3  | 喜納 彩              | きな さやか    | 那覇中学校       | 3  | ピアノ、水泳、読書                        |
| 4  | 上原 ありさ            | うえはら ありさ  | 興南中学校       | 2  | ダンス、英語スピーチ                       |
| 5  | 潮平 洋治             | しおひら ようじ  | 北山高校        | 3  | 太鼓、音楽                            |
| 6  | 山瀧 美紅             | やまたき みく   | 前原高校        | 3  | ベリーダンス、フィンランド語、ロシア語、<br>ペンパルとの文通 |
| 7  | 城間 咲              | しろま さき    | 北谷高校        | 3  | 音楽、英語                            |
| 8  | 友寄 奈美紀            | ともよせ なみき  | 宜野湾高校       | 2  | 音楽鑑賞・バレーボール                      |
| 9  | 眞壁 純也             | まかべ じゅんや  | 陽明高校        | 2  | 三線・読書                            |
| 10 | 久高 拓也             | くだか たくや   | 首里東高校       | 3  | ギター・映画鑑賞                         |
| 11 | 阿武 真帆             | あんの まほ    | 興南高校        | 2  | 音楽鑑賞、空手                          |
| 12 | 金城 香鈴             | きんじょう かりん | 真和志高校       | 2  | 運動・人との交流                         |
| 13 | 金城 早紀             | きんじょう さき  | 豊見城南高校      | 3  | 音楽鑑賞                             |
| 14 | 平良 恵理奈            | たいら えりな   | 久米島高校       | 3  | ピアノ・三線                           |
| 15 | 芳沢 雅              | よしざわ みやび  | 八重山高校       | 2  | 読書・食べること                         |
| 16 | 仲濱 美海             | なかはま みうみ  | 東京都立大山高校    | 2  | オペラ、三線                           |
| 17 | <青年リーダー><br>宮里 翔和 | みやざと とわ   | 城西国際大学      | 2  | ダンス、三線、バドミントン、映画鑑賞               |

Group 「Sixワーカー」

|   | Name                                   | School/Country                    | 係 person in charge |
|---|--|-----------------------------------|--------------------|
| 1 | クック エリカ<br>COOK ERIKA                  | アメリカ合衆国<br>USA                    | 副班長                |
| 2 | オカネク ツツミ ケンタ<br>OKANEKU TSUTSUMI KENTA | メキシコ合衆国<br>Mexico                 | 班長                 |
| 3 | 金城 巴奈(キンジョウ ハナ)<br>ONG AI LIN          | マレーシア<br>Malaysia                 | ワークショップ            |
| 4 | 上原 ありさ<br>Arisa Uehara                 | 興南中学校<br>Konan Junior High School | 健康管理               |
| 5 | 山瀧 美紅<br>Miku Yamataki                 | 前原高校<br>Maehara High School       | レクリエーション           |
| 6 | 宮里 翔和<br>Towa Miyazato                 | University of Jyosei<br>城西国際大学    | 食事                 |

Group 「Majun(まじゅん)」

|   | Name                                | School/Country                      | 係 person in charge |
|---|-------------------------------------|-------------------------------------|--------------------|
| 1 | 岸本 ネスター<br>KISHIMOTO NESTER         | アメリカ合衆国<br>USA                      | レクリエーション           |
| 2 | 祖堅 ラケル アケミ<br>SOKEN RAQUEL AKEMI    | ブラジル連邦共和国<br>Brazil                 | 食事                 |
| 3 | 安慶名 ミチ カリナ<br>MICHELLE KARINA AGENA | アルゼンチン共和国<br>Argentina              | ワークショップ            |
| 4 | 眞壁 純也<br>Jyunya Makabe              | 陽明高校<br>Yomei High School           | 健康管理               |
| 5 | 仲濱 美海<br>Miumi Nakahama             | 東京都立大山高校<br>Tokyo Oyama High School | 副班長                |
| 6 | 阿武 真帆<br>Anno Maho                  | 興南高校<br>Kounann High school         | 班長                 |

Group 「Tundere(ツンデレ)」

|   | Name  | School/Country                   | 係 person in charge |
|---|---|----------------------------------|--------------------|
| 1 | アラカキ タング アキラ エンリケ<br>ARAKAKI TANG AKIRA ENRIQUE | ペルー共和国<br>Peru                   | 副班長                |
| 2 | 宋 宇成<br>SONG WOOSUNG                            | 大韓民国<br>Korea                    | 健康管理               |
| 3 | 知念アマンダ ノエミ カワカミ<br>CHINEN AMANDA NOEMI KAWAKAMI | ブラジル連邦共和国<br>Brazil              | 班長                 |
| 4 | 平良 恵理奈<br>Erina Taira                           | 久米島高校<br>Kumejima High School    | レクリエーション&ワークショップ   |
| 5 | 喜納 彩<br>Sayaka Kina                             | 那覇中学校<br>Naha Junior High School | 食事                 |

Group 「Ni-Two-Dois」

|   | Name                                    | School/Country                       | 係 person in charge |
|---|---|--------------------------------------|--------------------|
| 1 | 熱田 仁奈<br>ATTA NINA                      | ボリビア多民族国<br>Bolivia                  | ワークショップ            |
| 2 | ジョセフ 海 レッドモンド<br>JOSEPH KAI REDMOND     | アメリカ合衆国<br>USA                       | レクリエーション           |
| 3 | 高安 ジュリオ ヒロマサ<br>TAKAYASU JULIO HIROMASA | ブラジル連邦共和国<br>Brazil                  | 副班長                |
| 4 | 金城 香鈴<br>Karin Kinjyo                   | 真和志高校<br>Mawashi High School         | 健康管理               |
| 5 | 久高 拓也<br>Takuya Kudaka                  | 首里東高校<br>Syuri-Higashi High School   | 班長                 |
| 6 | 饒平名 美妃<br>Miki Yohena                   | 普天間中学校<br>Futenma Junior High School | 食事                 |

Group 「Cacao」

|   | Name   | School/Country                                | 係 person in charge |
|---|--|---|--------------------|
| 1 | 安座間 キミエ<br>KIMIE AZAMA                       | アメリカ合衆国<br>USA                                | 健康管理               |
| 2 | ウエハラ アグスティン エセキエル<br>UEHARA AGUSTIN EZEQUIEL | アルゼンチン共和国<br>Argentina                        | 食事                 |
| 3 | 潮平 洋治<br>Yoji Shiohira                       | 北山高校<br>Hokuzan High School                   | 班長                 |
| 4 | 城間 咲<br>Saki Shiroma                         | 北谷高校<br>Chatan High School                    | レクリエーション&ワークショップ   |
| 5 | 神里 晏朱<br>Anju Kamizato                       | 昭和薬科大学付属中学校<br>Showa yakka Junior High School | 副班長                |

Group 「美らLINDA」

|   | Name  | School/Country                         | 係 person in charge |
|---|---|--|--------------------|
| 1 | イシサカ イレイジョ ニコル ジュン<br>ISHISAKA IREIJO NICOLE JUUN | ペルー共和国<br>Peru                         | 班長                 |
| 2 | 山城 太一<br>YAMASHIRO TAICHI                         | ボリビア多民族国<br>Bolivia                    | 食事                 |
| 3 | 金城 早紀<br>Saki Kinjyo                              | 豊見城南高校<br>Tomishiro-minami High School | 副班長                |
| 4 | 友寄 奈美紀<br>Namiki Tomoyose                         | 宜野湾高校<br>Ginowan High School           | 健康管理               |
| 5 | 芳沢 雅<br>Miyabi Yoshizawa                          | 八重山高校<br>Yaeyama High School           | レクリエーション&ワークショップ   |

## (8) 講師紹介

| 担当科目                             | 講師  |  |
|----------------------------------|---|--|
| <b>歴史学習</b><br>(首里城ガイド)          |    | <b>琉球史研究家 喜納 大作</b><br>1984年生まれ。沖縄国際大学大学院地域文化研究科修士課程修了。地域研究グループ シマミグイ、南島地名研究センター幹事。地域文化の研究とそれを地域に還元することを理念に現在も活動中。共著に『知れば知るほどおもしろい 琉球王朝のすべて』   |
|                                  |    | <b>琉球史研究家 山城 彰子</b><br>1984年生まれ。琉球史、主に女性史を研究。琉球大学非常勤講師。留学生を中心に、琉球史や沖縄事情についてレクチャーしている。  |
| <b>移民学習</b><br>(アイデンティティワークショップ) |   | <b>沖縄 NGO センター (ONC) 當銘 優香</b><br>県内で数少ない国際協力を携わる市民団体で、開発教育・国際理解教育ファシリテーターを務めています。第5回世界のウチナーンチュ大会ではイベントとして「レッツスタディー！ワールドウチナーンチュ事業」で県内の生徒たちと移民先の県系人を結んだり、移民学習教材「チャンプレアンド」や「移民かるた」などの作成にも携わりました。         |
| <b>文化学習</b><br>(パフォーマンスワークショップ)  |  | <b>TAO Factory 代表 藏當 慎也</b><br>伝統的な「組踊」を現代風アレンジした舞台を制作・演出・プロデュース。若い世代の子供たちが沖縄各地の歴史や伝承を題材にミュージカル仕立てのエンターテインメントを演じます。1999年「肝高の阿麻和利」の初演以来、その舞台は海外へも広がっています。2004年から沖縄の移民の父「當山久三ロマン～未来の瞳」を金武町で年1回、本公演しています。 |
| <b>平和学習</b>                      |  | <b>ひめゆり平和祈念資料館 学芸員 古賀 徳子</b><br>南風原文化センター職員などを経て現職。ワークショップやファシリテーションの実践を続け、特に平和教育の手法を磨いてきました。これまでの沖縄における平和教育はどうだったのか、これからどんな形で平和教育を進めて行けばいいのかを模索し、参加型手法のフォトランゲージや、ロールプレイを通して沖縄の平和教育を作っています。            |
| <b>移民学習</b><br>(ウチナーネットワークの活用)   |  | <b>世界若者ウチナーンチュ連合会 (WYUA) 代表 玉元 三奈美</b><br>第5回世界のウチナーンチュ大会をきっかけに沖縄本部を中心に「WYUA」を発足。アメリカ・ハワイ・ブラジル・ポリビア・ペルー・アルゼンチン・イギリスに支部を置く。沖縄の未来を担う人材の創出、交流の場を作り、「世界のウチナーンチュ」の発展を担うことを目的とし、活動中です。                       |
| <b>社会・文化学習</b><br>(藍染体験)         |  | <b>沖縄こどもの国 吉岡 由恵</b><br>明治末期から大正にかけての農家のたたずまいを復元した国登録有形文化財「沖縄市ふるさと園」にて、地域の風俗、習慣、歴史を肌で感じながら、衣類の染色に昔から重宝してきた藍染めについて学び、手拭い染めの体験を行います。   |

## 2. 実施内容

## 事前学習 7/4(土)・7/18(土)

### ■ 第一回 事前学習

日時： 平成27年度7月4日(土) 13:00～16:30

場所： JICA沖縄国際センター 多目的室

目的： 県内参加者を対象とし、ホストとして県外参加者を受入れる心構えを持たせる。

| 時間          | 内容                | 詳細                                       | 担当/講師                       |
|-------------|-------------------|--|-----------------------------|
| 13:00-13:30 | 事業概要説明、スタッフ紹介     | 事業の趣旨、心構え等の説明                            | 沖縄県                         |
| 13:30-14:15 | 参加者自己紹介、チームビルディング |  | JOCA 加藤                     |
| 14:15-14:30 | 昨年度プログラム          | 写真を使って昨年度の内容を紹介                          | 昨年度参加者<br>伊佐 茉倫             |
| 14:40-15:30 | 沖縄移民の歴史講座         | ①フォトランゲージ<br>②南米移民の解説<br>③「もうひとつのオキナワ」上映 | 古謝 敦子氏<br>(沖縄県ポリビア<br>派遣教師) |
| 15:35-16:30 | 沖縄紹介プレゼンテーション作戦会議 | ①沖縄の良さのブレストニング<br>②プレゼンテーションの内容、グループ分け   | JOCA 池田                     |

#### \* 「次世代のウチナーネットワーク」を担う、人材育成事業

沖縄県広報交流課からプログラムの概要の説明があり、「一週間の交流を通して、今後海外との架け橋となる人材に育ってほしい。参加することのできなかつた応募者の分までしっかりと学んでほしい」とメッセージが送られました。また、昨年度参加した伊佐茉倫さんは、本事業を通じて自分から発信する大切さを学んだと伝え、「言語の壁は関係ない。とにかく積極的に楽しんで！」とアドバイスがありました。

#### \* 沖縄移民の歴史を知る—受け継がれるウチナー文化

参加者は古謝先生が撮影した写真を見ながら、南米の移民社会を想像していきました。沖縄のお菓子を作って、「母県」の味を守り続ける2世のおばあさんのエピソードを聞いたり、ビデオで三線を練習する子ども達の姿を見たりし、「地球の反対側で『沖縄』が繋がっていることに感動した」、「初めて知ることで驚いた」と、感想を共有しました。

#### \* ホストとして海外参加者を迎える—沖縄紹介プレゼンテーション作成

海外参加者の沖縄への憧れを知った参加者。ホストとして迎えるため、自分たちが伝えたい「今の沖縄」について、アイデアを出し合い、発表の準備を進めていきました。どのような発表をしたら海外参加者が喜んでくれるかを考えながら、沖縄の伝統や歴史を調べる中で、参加者自身が沖縄について学ぶ時間にもなりました。

## ■ 第二回 事前学習

日時： 平成 27 年 7 月 18 日(土) 13:00 ～ 16:30

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

目的： 学習プログラムで実施する沖縄紹介プレゼンテーション作成。

| 時間          | 内容                | 詳細                                   | 担当/講師  |
|-------------|-------------------|--------------------------------------|--------|
| 13:00-14:00 | 発表準備              |                                      |        |
| 14:15-14:50 | リハーサル<br>計 4 グループ | ①沖縄の食べ物 ②沖縄の観光<br>③沖縄の伝統 ④ウチナーンチュの人柄 |        |
| 14:50-16:00 | プレゼンテーション改善       | 内容、発表の仕方を見直す                         |        |
| 16:00-16:30 | 交流プログラム           | レクリエーション、ダンス                         | ボランティア |

### \* 工夫を凝らしたグループ発表

参加者それぞれが調べた内容をグループでまとめ、発表に向けての準備が始まりました。パワーポイントを使い、効果的にイラストや写真を入れて、分かり易くまとめていたり、劇を取り入れたり、三線の実演をしたりと、グループごとに工夫を凝らしていました。リハーサル後にスタッフからフィードバックを受け、話し方の間、聞き手に問かける内容を心掛けるなど、プレゼンテーションのポイントを学びました。

### \* 年度を越えた事業の繋がりを実感。OB、OG との交流

OB、OG がボランティアとして積極的にプログラムに関わることは、本事業の大きな特徴です。プレゼンテーションの準備を一段落させた後、初日のオリエンテーションで海外参加者と一緒に行うレクリエーションを体験しました。一度体験することで、海外参加者に自分達でルールを説明できるようにし、自分から声をかけてホストの姿勢を見せてほしい、と事業の先輩としてのねらいを伝えました。まだ緊張している様子が見えた参加者でしたが、様々なレクリエーションやダンスを通して自然と笑顔が溢れ、少しずつ個性を見せ始めていました。



## 学習プログラム【一日目】 8/2(日)

| 時間          | 内容                | 詳細                          | 担当/講師  |
|-------------|-------------------|-----------------------------|--------|
| 10:00-11:30 | 開講式<br>オリエンテーションⅠ | 趣旨説明、スタッフ紹介<br>資料配布、参加者自己紹介 |        |
| 13:00-14:00 | オリエンテーションⅡ        | 沖縄紹介プレゼンテーション<br>グループの係決め   |        |
| 14:00-15:30 | 交流プログラム           | レクリエーション、ダンス                | ボランティア |
| 16:00-18:00 | ウェルカムパーティー        |                             |        |

### ■ 開講式・オリエンテーション

日時： 平成 27 年度 8 月 2 日(日) 10:00 ～ 14:00

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

目的： ①参加者同士の交流を深めると共に、本事業の目的・内容を確認して事業への理解促進を図る。

②県内参加者が沖縄紹介プレゼンテーションを実施する。また、グループに分かれて係決めを行う。

内容： 沖縄県広報交流課から本事業の趣旨説明があり、海外の県人会の役割や、次世代のリーダーとしての期待が伝えられました。また実施団体代表の加藤から、「一週間という時間はすぐに過ぎてしまう。自分の目標を立てて欲しい」とプログラムを充実させるためのアドバイスがあり、「交流して自分を成長させたい」、「ここにいる全員と友達になる」等、各々目標を考えました。

午後には、県内参加者が事前学習で準備した、「自分たちが伝えたい沖縄」を紹介しました。クイズや演奏で工夫した発表は、「知らないことが学べたし、たくさん笑った」と好評でした。ブラジルやボリビア参加者の反応から、「もしかしたら、私よりも深く知っている人がいるかもしれない」と感じた参加者もあり、「(だからこそ)この事業を通してたくさんのことを学びたい」と一日の振り返りノートに書いていました。



## ■ 交流プログラム（ボランティア企画）

時間： 平成27年8月2日(日)14:00～15:30

場所： JICA沖縄国際センター 多目的室

目的： レクリエーションを通して参加者同士、OG・OBとの交流を深める。

内容： 国際交流の事業の先輩であるボランティアが担当する、恒例企画。まずは顔と名前を覚えるようにと、自己紹介をしながらジャンケンゲームが始まり、徐々に参加者の緊張が解けていきました。「人間知恵の輪」では、事前学習でコツを覚えた参加者がジェスチャーを使いながらリードする様子も見られました。「片言でも心をこめたら通じたから楽しかった」と、言葉の壁を越えた交流の場を持つことができました。



## ■ ウェルカムパーティー

日時： 平成27年8月2日(日)16:00～18:00

場所： JICA沖縄国際センター 体育館

### 【式次第】

- |              |   |
|--------------|---|
| 1. 歓迎の挨拶     | 沖縄県知事公室<br>広報交流課 課長 金城 敦  |
| 2. 乾杯の音頭     | 沖縄ブラジル協会 会長 西原 篤一<br>～ 食事・懇談～   |
| 3. 参加者代表挨拶   | 金城 香鈴(真和志高校)<br>アラカキ アキラ(ペルー)<br>安座間 キミエ(U.S.A)                           |
| 4. 海外県人会自慢   | 海外参加者 (16名/8ヶ国)   |
| 5. 参加者による余興  |   |
| (1) 三線演奏     | 饒平名 美妃(普天間中学校)、眞壁 純也(陽明高校)<br>金城 香鈴(真和志高校)、金城 早紀(豊見城南高校)<br>平良 恵理奈(久米島高校) |
| (2) エイサー     | 潮平 洋治(北山高校)   |
| (3) ダンス      | 上原 ありさ(興南中学校)   |
| (4) ベリーダンス   | 山瀧 美紅(前原高校)   |
| (5) ブラジルのダンス | 知念 アマンダ ノエミ カワカミ<br>祖堅 ラケル アケミ、高安 ジュリオ ヒロマサ<br>～ 記念撮影～                    |

内容：初日の最後には、保護者や関係者を招いてウェルカムパーティーを行いました。主催者代表の金城課長から、一週間のプログラムを積極的に取り組み、「同じウチナーンチュとしての絆を深め、大いに刺激を受けてほしい」と激励の言葉が贈られました。余興では、伝統芸能やそれぞれの得意分野を披露し、会場を盛り上げました。昨年に引き続き実施した、海外参加者が準備してきた各国の県人会自慢プレゼンテーションでは、運動会やピクニック等の様子が紹介され、「すべての国に共通して沖縄の伝統や行事があった」(国内参加者)と、移住先で伝わる沖縄の文化を知る時間となりました。



主催者あいさつ



乾杯



県人会自慢プレゼンテーション



三線



エイサー



ダンス



ベリーダンス



ブラジルのダンス



事業参加者、ホストファミリー及び参加国の各協会など来場者

## 参加者の「一日の振り返りノート」【一日目】

### 【沖縄紹介プレゼンテーション、海外参加者の国自慢&県人会自慢】

- ・海外でも日本や沖縄の文化や祝日があることに驚いた。こんなに文化が浸透していると思っていなかった。(国内参加者・女)
- ・沖縄の文化や食べ物など、音楽も聞かせてくれ、とても楽しく分かり易かった。  
(海外参加者・男)
- ・他の国の県人会のことも学べて良かったし、もっと自分の県人会について学びたいと思った。(海外参加者・女)

### 【交流プログラム】

- ・みんなウチナーンチュらしいなと思った。(国内参加者・女)
- ・一気にみんなとの距離を縮めることができ、とても楽しかった。(海外参加者・女)
- ・日本語が話せなくても、多くの参加者と話すことができた。(海外参加者・男)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか。積極的にプログラムに参加できましたか】

- ・レク係になったので、レクリエーションのときにグループを並ばせたりできた。  
(国内参加者・女)
- ・少し恥ずかしかったけれど、ダンスやゲームを積極的に参加できたと思う。  
(海外参加者・女)
- ・私のグループはとても話しやすい人ばかりなのでとても気に入った。ゲームの時も一生懸命で、とても良いグループだった。(海外参加者・男)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・海外参加者が、どういう沖縄とのつながりを持っているのか、もっと知りたいと思った。  
(国内参加者・女)
- ・何事も積極的に！(国内参加者・男)
- ・もっと沖縄を学んで、ネットワークを築いていきたい。そして友達をたくさん作る！  
(海外参加者・女)
- ・自分が撮った写真を見せることで、県系人のみんなに沖縄への興味を持たせ、沖縄を訪問できるようにしてほしい。(海外参加者・男)

## 学習プログラム【二日目】 8/3(月)

| 時間          | 内容   | 詳細                                | 担当/講師   |
|-------------|------|-----------------------------------|---|
| 9:30-10:00  | 県庁表敬 |                                   |   |
| 10:30-13:00 | 歴史学習 | 首里城見学                             | 喜納 大作氏<br>山城 彰子氏                                |
| 15:00-18:00 | 移民学習 | ① アルトゥーロ CIR の講話<br><br>② ワークショップ | ① 沖縄県国際交流員<br>当山 樋口 アルトゥーロ<br><br>② 沖縄 NGO センター |
| 19:00-20:30 | 文化学習 | パフォーマンスワークショップ                    | TAO ファクトリー<br>藏當 慎也氏                            |

### ■ 県庁表敬

日時： 平成 27 年 8 月 3 日(月) 9:30 ～10:00

場所： 沖縄県庁 1 階 県民ホール

目的： 主催者への挨拶

【県庁表敬 式次第】

1. 沖縄県副知事                    浦崎 唯昭
  2. 海外参加者代表                熱田 仁奈 (ボリビア)
  3. 県内参加者代表                芳沢 雅 (八重山高校)
- ～ 記念撮影～

内容： 沖縄県庁を訪問し、少し緊張した面持ちで参加者代表の 2 名が決意表明を行いました。「この事業をきっかけに多くのウチナーンチュと友達になり、ウチナーネットワークの輪を広げていきたい」(ボリビア:熱田仁奈)、「将来について仲間たちと意見交換をし、様々な視点を持ちたい。少しでも沖縄に貢献したい」(沖縄県:芳沢 雅)と抱負を述べました。浦崎副知事からは、「将来世界で活躍できるような、国際的視野を備えたウチナーンチュとなられるよう頑張って下さい」と激励の言葉が送られました。この様子は県内のテレビニュースや紙面で紹介されました。



副知事あいさつ



## ■ 歴史学習－沖縄の歴史と文化

日時： 平成 27 年 8 月 3 日(月) 10:30 ～ 13:00

場所： 首里城

講師： 喜納 大作 氏、山城 彰子 氏

目的： 沖縄がどのような歴史を経て現在まで至ったのか、特に「琉球王国」の時代に焦点を当てて琉球史を学ぶ。過去から現在の沖縄をつなぐ視点を持たせ、そこから未来への可能性を模索する視点を養う。

内容： 首里城の各名所を見学しながら、講師の解説を聞く。

結果： まずバスの中で琉球史の説明を聞き、琉球王国の成り立ちについて概要をつかみました。その後、首里城では言語別に 2 グループに分かれて各名所を回り、宗教上や風水の考えが立地に反映されていることや、メインとなる正殿に見られる日本や中国の建築様式の特徴から、かつて琉球がアジア近隣国と交易から大きな影響を受けていたこと等の話が聞けました。また、首里城には聖域となる御嶽がたくさんあり、そのことを知らない訪問者が踏みつけてはいけない石を踏んでしまっている現状を上げ、「文化を尊重するためには、その文化を知らなければならない。知らなければ文化を守ることもできない」と、異文化交流の大切さが伝えられました。



## ■ 移民学習－県系人アルトゥーロ氏の講話・アイデンティティーワークショップ

日時： 平成 27 年 8 月 3 日(月) 15:00 ～ 18:00

場所： 糸満青少年の家 研修室

講師： ①沖縄県国際交流員（ペルー） 当山 樋口 アルトゥーロ氏  
②沖縄 NGO センター 當銘 優香氏

目的： 沖縄から海外に移民として輩出されるようになった歴史を学び、現在の沖縄県系社会について知る。また、互いのアイデンティティーについて考えを共有する中で、同じウチナーンチュでありながらも多様性があることを知る。

内容： ① ペルーの日本移民、一世のおばあさんの話  
② アイデンティティーを考えるワークショップ

結果： ① 県系人アルトゥーロ氏の講話  
ペルー出身のウチナーンチュで、現在は国際交流員と活躍するアルトゥーロ氏を講

師に招き、沖縄からペルーに移住した氏の御祖母様の人生と、御祖母様からの教訓を聞いて育った自身の人生が語られました。本事業の同行通訳でもあることから、アルトゥーロ氏の話は参加者にとって身近なものとなり、会場全体が氏の話に引き込まれていました。参加者たちは移民についての理解が深まった上、御祖母様の教えに共感したことで、「私も最後まであきらめない」などの決意の言葉が自然と出てきていました。



## ②全員に共通する「沖縄」

アルトゥーロ氏の講話の後は、沖縄 NGO センターが講師を引き継ぎ、移民学習をさらに深めるワークショップが行われました。「あなたは何人？」という問いから、自分の過去の経験を振り返り、自分のアイデンティティーについて考えました。パーセンテージで示したグラフには、大きさは違っても、どの参加者にも共通する「沖縄」があり、「だからこそ、ここに集まれた」、と、普段沖縄について話す機会の少ない参加者は、感慨深げに感想を伝えていました。南米の参加者からは、「沖縄で感じる『沖縄』のアイデンティティーと、海外での『沖縄』は少し違う。アジア人の少ない南米では、周りの目もあり、日常的にアイデンティティー＝沖縄を意識している」、と発言があり、日系人が持つウチナンチュ意識の強さを知る場面でした。



## ■ 文化学習ーパフォーマンスワークショップ『ダイナミック琉球』

日時： 平成27年8月4日(月) 19:00 ~ 20:30

場所： 糸満青少年の家 体育館

講師： TAO ファクトリー 藏當 慎也氏

目的： 伝統芸能「組踊」を現代風にアレンジした舞台「現代版組踊」の一部を体験する。沖縄の多彩な文化を全身で感じ、チームが一体となる連帯感と達成感を味わう。

内容： 『ダイナミック琉球』の練習

結果： 「肝高の阿麻和利」の舞台の卒業生を講師陣に招き、フェアウェルパーティーで披露する『ダイナミック琉球』の振付練習を行いました。沖縄の音楽と踊りが現代風にアレンジされた演舞は躍動感に溢れ、海外参加者にも「かっこいい」と思わせるものでした。初めて聞く人にとっても馴染みのある音とリズム、「イーヤーサーサ」の掛け声が参加者たち気持ちを



掻き立て、会場には一体感が広がっていました。一緒に一つのものを作り上げることは、参加者たちの仲間意識を強めます。この日から自主練習が始まり、互いに教え合い高め合う時間が生まれました。(8月7日の第二回ワークショップに続く)

## 参加者の「一日の振り返りノート」【二日目】

### 【歴史学習：首里城見学】

- ・私たちのほうが近くに住んでいるのに知らないという事があったので、これを通してもっといろんなことを知りたいと感じた（国内参加者・女）
- ・首里城の鐘にもあった、世界の架け橋となる人材の一人になりたい。（国内参加者・男）
- ・首里城は地下の土地が世界遺産であることや、韓国や中国、日本の間の文化の影響を受けていることがわかった。（海外参加者・女）

### 【移民学習：県系人アルトゥーロ氏の講話、アイデンティティワークショップ】

- ・県外の人たちがどれほどウチナンチュとして自覚しているのかがわかって、いい経験が出来た。（国内参加者・女）
- ・（アルトゥーロさんの話を聞いて）自分の夢が大切だと感じた。（国内参加者・女）
- ・違うバックグラウンドを持った人達ともっと交流したいと思った。（海外参加者・女）
- ・自分がウチナンチュとして、今から何をしないといけないかと深く考えた。  
（海外参加者・男）

### 【文化学習：パフォーマンスワークショップ『ダイナミック琉球』】

- ・歌の部分しかわからなかったけれど、知っている参加者がいたので、部屋でもたくさん練習したい。（国内参加者・女）
- ・ダンスがすごくカッコ良かったので、国に帰ったときに教えたいなと思いました。完璧に覚えたいです！（海外参加者・女）
- ・スピードが上がるとついていけなくなるので、もっと頑張りたい！（海外参加者・男）

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか。積極的にプログラムに参加できましたか】

- ・ワークショップは、グループのみんなで積極的にいろんな話が出来た。深い話もいっぱいでき、いい経験になった（国内参加者・女）
- ・私のグループで良かった。英語、日本語の“チャンプルー”でコミュニケーションを取れている。（海外参加者・女）

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・一人のウチナンチュとしてどうあるべきかを考えさせられた。行動に移していきたい。  
（国内参加者・女）
- ・移民の方々がどれだけ頑張ってきたかをもっと学び、伝えていく必要があると思った。  
（国内参加者・男）
- ・なぜ沖縄が好きなのか、それを探しにUJSに参加しているのかもしれないなと思いました。  
（国内参加者・女）
- ・距離があっても、世界のウチナンチュは絆を持つことができる。（海外参加者・女）

## 学習プログラム(三日目) 8/4(火)

| 時間          | 内容    | 詳細                           | 担当/講師                     |
|-------------|-------|------------------------------|---------------------------|
| 09:00-10:00 | 平和学習Ⅰ | 講義：世界の現状と日本のODAの必要性          | JOCA 加藤                   |
| 10:30-13:00 | 平和学習Ⅱ | ひめゆり平和祈念資料館見学<br>平和構築ワークショップ | ひめゆり平和祈念資料館<br>学芸員 古賀 徳子氏 |
| 14:15-15:30 | 平和学習Ⅲ | 平和の礎見学                       |                           |
| 16:00-18:30 | 自然学習  | ビーチ交流                        |                           |

### ■ 平和学習Ⅰ－講義：世界の現状と日本のODAの必要性

日時： 平成27年8月4日(火) 9:00～10:00

場所： 糸満青少年の家 研修室

講師： JOCA 加藤 秀一

目的： 日本は歴史的にも、世界でも一番援助を受けてきた国である。その日本が受けてきた援助の歴史を知り、世界が置かれる現状について学ぶことで、平和構築に必要な要素を考えるワークショップを行う前の共通認識を持たせる。

内容： 日本が受けてきた援助の歴史、世界の現状

結果： プログラム3日目は平和学習が中心の一日でした。最初の学習として、本事業統括責任者のJOCA加藤から、世界の現状について講話を行いました。ほとんどの参加者にとっては、学校では学ぶことのない初めて知る内容ばかりで、日本とは全く環境が違う世界の現状に驚いている様子でした。本学習は特に国内参加者に好評で、命のビザを発給した杉原千畝氏のエピソードを初めて聞いた参加者からは、「敵国人種など関係なく命を救ったことは、日本人の誇り」との感想が出ていました。



また、LARA物資に日系人が多く関わったことについては、援助の面でも海外に移民した人々との繋がりがあることを学びました。「いま、私たちは何ができるか」、最後にこの問いを受け、午後の平和学習へと進みます。

## ■ 平和学習Ⅱ－ひめゆり平和祈念資料館見学、平和構築ワークショップ

日時： 平成27年8月4日(火) 10:30～13:00

場所： ひめゆり平和祈念資料館

講師： ひめゆり平和祈念資料館 学芸員 古賀 徳子氏

目的： 日本で唯一地上戦が繰り広げられ、県民の4分の1が犠牲になった沖縄。戦後70年の節目の年に、ひめゆり学徒隊の「同世代」の戦争を追体験し、命の尊さについて考える機会とする。資料館見学後には、ワークショップを通して、平和構築のために何が大切か、自分たちに何ができるのかを話し合い、一人ひとりが平和構築の発信基地となることを目指す。

内容： 資料館見学、アニメ「ひめゆり」鑑賞、平和構築ワークショップ

結果： まず、ひめゆり平和祈念資料館を見学しながら、当時の同世代が直面した戦争の現実を学びました。体験者の話を聞いた参加者は、「時代の中で強制的に戦争に協力しなければならなかったのは、辛いし悔しい」と感想を話していました。また、「沖縄戦のことをこんなに具体的に知ったのは初めて」と話す海外参加者もいて、その言葉に「驚いた」と感じた県内参加者もいました。

そして、『『平和』をつくるための9つの方法』をテーマに、平和を作るためにどのような行動が大切か、それぞれの政治や文化の違いを交えながら意見交換し、平和構築について深く掘り下げていきました。ほとんどのグループがA（下記参照）を一番大切だと選択、「一人ひとり考えは違っても、その人を理解することで、周りの人の考えを変え、平和を創ることができる」と意見を述べました。これら一連の学習を通して、戦争を他人事ではなく、自分のルーツとの繋がりを感じつつ、命や平和の尊さをより深く考える内容となり、参加者からも、「平和」についてみんなとディスカッションできたことが一番印象に残っている、との感想が出ていました。

「平和」を作るための9つの方法 ※取り組むべきこと、重要だと思うものをランク付けする。

- A 差別や偏見を持たないで一人ひとりの人間の命と尊厳を大切にする。
- B 国際交流の活動をおこなって外国人と友だちになり、異文化を理解する。
- C どんな形の暴力も使わない。他の人が暴力を使うことも許さない。
- D 音楽やアート、演劇などを通して、平和をテーマにしたイベントを開く。
- E メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）を通じて、平和の大切さを訴える。
- F クラスや学校で、「戦争」「平和」について話し合う。
- G 他の人と意見が対立したときは、わかるまで耳を傾け、話し合っ解決する。
- H 国と国との争いを平和的に解決するよう、政治家にはたらきかける。
- I あなたのアイデア



### ■ 平和学習Ⅲ－平和の礎見学

日時： 平成 27 年 8 月 4 日(火) 14:15 ～ 15:30

場所： 糸満平和祈念公園 平和の礎

目的： 多くの民間人の犠牲が出た沖縄戦の事実を知ると共に、戦争で犠牲になった、「家族」の記憶を辿る。

内容： 平和の礎を訪れ、事前に調べてきた親族、家族の名前を探す。

結果： 参加者は、礎に刻銘されている名前を一つ一つ指でなぞりながら、戦争で亡くなった家族の名前を探していきました。同姓が多くいるため、市町村だけの情報ではなかなか見つけることができない中、出発の時間ぎりぎりに、家族の名前を見つけることができた参加者もあり、静かに手を合わせていました。海外参加者にとっては、国で待つ誰かの代わりに、思いを託されてこの礎を訪れている人もおり、写真を撮る姿や、礎の上に紙を重ね、名前を写す姿も見られました。



### ■ 自然学習・交流企画

日時： 平成 27 年 8 月 5 日(火) 16:00 ～ 18:30

場所： 美々ビーチ

目的： 世界に誇る沖縄の美しい海・自然を満喫しながら、仲間との絆を深める。

内容： 青年リーダーによるレクリエーション、ビーチ交流

結果： 待ちに待ったビーチ交流の時間。海外参加者は、遠くまで透き通った海と、白い砂浜に感動し、走り回って沖縄の海を満喫していました。

青年リーダーの 2 人を中心に行った、クイズやゲームを通して、ビーチでの時間を通してさらにみんなと仲良くなれた、と話していました。また、この時間に班や宿泊部屋とは違うメンバーへ自分から話しかけてい

ったという参加者もあり、「いつも一緒のメンバーにいるのではなく、色々な人と交流していくことも大切だと思った」と、開放的な海を前に、参加者の親睦もより深まったようです。



## 参加者の「一日の振り返りノート」【三日目】

### 【平和学習：講義 世界の現状と日本のODAの可能性】

- ・ 私たちには何が出来るのかしっかき考えたい（国内参加者・女）
- ・ 電気の無駄遣いなど、身近なことから変えていき、自分達で平和を作っていきたい。  
(国内参加者・女)
- ・ 「先進国は、少し、いろんなことを考えなきゃいけない」というコメントが良かった。  
(海外参加者・男)

### 【平和学習：ひめゆり平和祈念資料館、平和の礎】

- ・ 私のひいおじいちゃんの名前とおばあちゃんのおじさんとか身内の名前も平和の礎に刻まれていて名前を見つけて触って、手を合わせることが出来た。（国内参加者・女）
- ・ 今こうして生きていることおじいちゃん達に感謝しないと、と思った。（国内参加者・女）
- ・ 人生で初めて戦争体験者の話が聞けた。（国内参加者・女）
- ・ 自分と同じ苗字の名前が刻まれているのを見て、親せきではないことがわかって、悲しかった。（海外参加者・男）

### 【自然学習・交流プログラム：ビーチレクリエーション】

- ・ 海外参加者の言葉を理解するのがとても大変だったけど、相手も日本語を理解しようとしてくれたり、顔で笑わせてくれたりしたので、こういう交流も大切だと思った。  
(国内参加者・女)
- ・ チームビルディングで、参加者がボディランゲージを使ってコミュニケーションを試みている姿が面白かった。（海外参加者・男）

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか。積極的にプログラムに参加できましたか】

- ・ 点呼のときなど、グループで声を掛け合うことができ、“協力する心”が感じられた。  
(国内参加者・女)
- ・ 私たちに何が出来るか等、グループでたくさんディスカッションができた。  
(海外参加者・女)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・ 今私たちはなにができるのかって聞かれたときに答えがすぐにはでてこなくてダメだなあって思ったけど、これからゆっくり考えてちゃんとと言えるような人になりたい。  
(国内参加者・女)
- ・ 私たちの先祖が体験した経験を皆が伝えていくべきだと思った。（国内参加者・女）
- ・ もっと沖縄戦のバックグラウンドの真実を見つけ、もっと沖縄の歴史を勉強して、友達に伝えたい。（海外参加者・女）
- ・ 沖縄の文化や習慣が失われないように、沖縄の習慣を続け、ボリビアと沖縄の架け橋になりたい。（海外参加者・男）

## 学習プログラム【四日目】 8/5(水)

| 時間          | 内容           | 詳細                    | 担当/講師                      |
|-------------|--------------|-----------------------|----------------------------|
| 10:00-12:00 | 社会学習         | フォトスカベンジャーハント         |                            |
| 13:30-16:30 | 移民学習Ⅱ        | ウチナーネットワークの活用         | 世界若者ウチナーンチュ<br>連合会 玉元 三奈美氏 |
| 17:00-21:00 | 自然学習・交流プログラム | BBQ、交流プログラム、キャンプファイヤー | ボランティア                     |

### ■ 社会学習ーフォトスカベンジャーハント

日時： 平成 27 年 8 月 5 日 (水) 10:00 ~12:00

場所： 道の駅いとまん

目的： 糸満市は、平和学習の他にも漁業や農業が盛んな町として知られている。糸満ならではの珍しい魚や野菜、それらを使ったユニークな加工品などが豊富に揃った道の駅いとまんを訪れ、地域特性を生かした地域振興を知る機会とする。

内容： グループ別に、文化や食べ物に関する「ターゲットリスト」にあるお題を写真に撮り、県民の生活の場を垣間見る。

結果： プログラム中盤のグループ活動であり、参加者は夢中になってリストのお題を探していました。「沖縄の伝統工芸品」というお題に、ミンサーの鞆を選び、その意味を海外参加者に教える姿も見られたり、「海外参加者が作ったことがあるお菓子」では、ほとんどのグループがサーターアンダギーを選んでおり、県人会のイベントのときに沖縄料理が作られると紹介する姿もありました。また、写真をどのように撮るかでグループ内で会話が弾んだようで、グループ内のコミュニケーションも活発に行われていました。働いている人や、買い物に来ている人から話を聞いたりしながら、新鮮な糸満の魚を堪能したりと、地域の良さにも触れる機会となりました。



#### ターゲットリスト (一部)

- 手のひらサイズのハイビスカス。
- お店で働く人とハイタッチ!
- みちの駅の“ばくだん”を探せ。
- 仏壇に供えるもの。
- 夏の島野菜と云えば?
- シカマサンドは何センチ?
- 美ら海水族館で見られるもの。

## ■ 移民学習Ⅱ－ウチナーネットワークの活用

日時： 平成27年8月5日(水) 13:30～18:00

場所： 糸満青少年の家 研修室

講師： 世界若者ウチナーンチュ連合会 (WYUA) 玉元 三奈美代表

目的： ウチナーンチュの活躍を知り、ウチナーネットワークについて理解を深め、自分のできること・やりたいことを考える。

内容： ①WYUA 設立までの玉元氏の体験、WYUA の活動、ウチナーネットワークの活用事例  
②「悩んでいること、悩みを解決するためのヒント、なりたい自分、なりたい自分になるためのヒント」を個人で考え、グループで共有する。

結果： 次世代のネットワーク作りを実践している、「世界若者ウチナーンチュ連合会」。代表の玉元氏から、自身の体験から掴んだ、挑戦を続ける志についての話があった後、現在のウチナーンチュの繋がりについて、具体的な事例紹介がありました。戦後、生活に困窮する沖縄に、ハワイから豚が送られたことについて、「移民したウチナーンチュに助けられた歴史を知り、ネットワークの大切さを知った」、との感想が出ていました。移民社会で継承される取り組みとして、ペルーの参加者から、県費留学生や、UJS 参加者等が主体となって開催する沖縄祭りの紹介もありました。後半の時間では、それぞれの悩みや将来について考え、互いの解決策を共有し合う時間を持ちました。UJS を半分終えて、「自分は今何をやるべきなのか、改めて考えさせられた。この機会をフル活用してあと3日間頑張りたい」、と、残りのプログラムに対し、気持ちを新たにに取り組む姿勢を見せていました。



## ■ 自然学習・交流プログラム (ボランティア企画)

日時： 平成27年8月5日(水) 17:00～21:00

場所： 糸満青少年の家 屋外広場

目的： 自然の下で食を囲みながら交流を深め、ボランティア企画を通して言葉を越えた心の繋がりをつくる。

内容： バーベキュー、グループ対抗ゲーム、キャンプファイヤー等

結果： ボランティアが準備してくれた様々なゲーム。色々な仲間たちと交流を深めてもらおうと、いつもとは違う新しいグループ編成でゲームを行い、笑いに囲まれた忘れられない思い出の時間となりました。キャンプファイヤーを囲んで踊った後には、青年リーダーの一声でボランティアへのお礼の言葉が伝えられ、こうした交流を当たり前にするのではなく、支えてくれる人達へ感謝の気持ちを表す大切さを気付くことができました。

## 参加者の「一日の振り返りノート」【四日目】

### 【社会学習：フォトスカベンジャーハント】

- ・沖縄の人ってあったかいなあと思った（国内参加者・女）
- ・グループ活動を通して、みんながもっと近づいたと思う。（海外参加者・女）
- ・お客さんに質問することや、店の人とハイタッチをするミッションがあったが、忙しい中でも応えてくれて、ありがたいと思った。（海外参加者・男）

### 【移民学習：ウチナーネットワークの活用】

- ・うちなーネットワークの貢献人として、皆で将来について考えることが出来たし、意見を共有し合えたと思う。（国内参加者・女）
- ・なりたい自分に近づけていく方法を学ぶことができた。（国内参加者・男）
- ・改めて、人との繋がりをもっと大事にしようと思いました。（海外参加者・女）

### 【自然学習・交流プログラム：BBQ、レクリエーション、キャンプファイヤー】

- ・自ら積極的にゲームに参加した（国内参加者・女）
- ・周りの人たちのおかげで、楽しめていると感じた（国内参加者・男）
- ・これまでに経験した中で一番のアクティビティだった！（海外参加者・女）

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか。積極的にプログラムに参加できましたか】

- ・少しでもいいから、海外参加者の皆さんとたくさん喋れた。（国内参加者・女）
- ・グループがとてもうまく動いていた。みんなに役割を持たせられた。（海外参加者・男）

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・一人一人の意識で、すごく身近なところから情報発信が出来ていくのかなと思った。  
(国内参加者・女)
- ・「自分の伝えたいことが伝えられる」当たり前だけど、言葉が通じないと、それは難しい。「言葉」という壁の分厚さを知った。壊したい。（国内参加者・女）
- ・繋がりや共有だけをするウチナーネットワークではなく、必要を感じたときに助け合える、家族のように生きていくことができるような絆を世界のウチナーンチュと作りたい。  
(海外参加者・女)



一生の思い出となった、交流プログラムの時間

## 学習プログラム(五日目) 8/6(木)

| 時間          | 内容      | 詳細                  | 担当/講師              |
|-------------|---------|---------------------|--------------------|
| 10:00-13:00 | 社会・文化学習 | 藍染体験、古民家見学          | 沖縄こどもの国            |
| 14:30-15:30 | 歴史学習    | 勝連城跡見学              | JOCA 神田            |
| 16:00-18:30 | 文化学習    | 「肝高の阿麻和利」バックステージツアー | 平田 大一氏<br>あまわり浪漫の会 |

### ■ 社会・文化学習－藍染体験、古民家見学

日時： 平成 27 年 8 月 6(木) 10:00 ～ 13:00

場所： 沖縄こどもの国 ふるさと園

講師： 沖縄こどもの国 吉岡 由恵氏

目的： 参加者の祖父母や曾祖父母が生きた時代の生活を体感する。自然の厳しさと恵みの中で、自然や人とのつながりを大切にしながら生きてきた沖縄の先人の知恵を学ぶ。

内容： 藍染体験、古民家見学

結果： 沖縄こどもの国の園内にある「ふるさと園」にて、藍染体験を行いました。沖縄の古い家屋で昔ながらの染色を体験することで、昔の沖縄の人たちの知恵や考え方を学ぶことができました。ほとんどのプログラムは、講演形式かディスカッションを行うものであるため、参加者たちは集中力を必要としますが、何気ない会話をしながらできる本プログラムは参加者たちの気持ちをリラックスさせ、結果的に交流が促進されたようでした。出来上がった手拭いをお土産として持ち帰ることができたということも好評でした。



## ■ 歴史学習－勝連城跡見学

日時： 平成 27 年 8 月 6 日 (木) 14:30 ～ 15:30

場所： 勝連城跡

案内： JOCA 神田 青

目的： 「肝高の阿麻和利」バックステージツアーの前に、阿麻和利が城主だった城跡を訪れ、その人物像に触れる。

内容： 勝連城跡を見学

結果： ユネスコ世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つである勝連城跡。まるで海に浮かんだ城のようにも感じられる立地はとても美しく、参加者を魅了していました。城主としてこの地域を栄えさせた阿麻和利の人となりや逸話を紹介し、参加者は次のバックステージツアーへのイメージを膨らませていました。

## ■ 文化学習－「肝高の阿麻和利」バックステージツアー&ワークショップ

日時： 平成 27 年 8 月 6 日 (木) 16:00 ～ 18:30

場所： うるま市市民劇場

講師： 平田 大一氏、あまわり浪漫の会

目的： 同世代の中高生が演じる故郷の英雄をモチーフにした歴史劇・現代版組踊で沖縄の芸能を体験する。

内容： バックステージツアー、パフォーマンス体験ワークショップ

結果： 現代版組踊「肝高の阿麻和利」の演出を手掛けてきた平田大一氏と、舞台を支える「あまわり浪漫の会」を中心に、肝高の阿麻和利バックステージツアー&ワークショップを実施しました。本事業の参加者たちは、最終日に披露する「ダイナミック琉球」の練習がすでに始まっていたことや、直前に勝連城址を見学していたことで、このワークショップで肝高の阿麻和利の全体像を見ることができました。キムタカキッズのパワフルな歌と踊りに、参加者たちのやる気が掻き立てられ、会場は終始笑顔と笑い声であふれていました。参加者たちは文化や「本気さ、真剣さ」は言葉の壁を越えて人の心を動かすことを学んだようでした。

アジアユース人材育成プログラムと同時開催となり、会場には 20ヶ国約 200 名の中高生が一堂に会し、「ダイナミック琉球」を全員で踊り、大いに盛り上がりました。互いに話をする場面も見られ、事業の枠を超えた交流ができました。



## 参加者の「一日の振り返りノート」【五日目】

### 【文化・社会学習：藍染体験、古民家見学】

- ・伝統的な手法で藍染を体験し、ひとり一人オリジナルのものを作ることができた。一定の品質で大量に作られたものか、それぞれに味があるが少量のものなのか、どちらが良いのかということを考えさせられた。(国内参加者・男)
- ・もっと沖縄の伝統芸能を勉強したいと思った。(海外参加者・女)
- ・みんなのデザインがそれぞれ違って、見るのも作るのもおもしろかった。(海外参加者・男)

### 【歴史学習：勝連城跡見学】

- ・歴史を書かれたまま受け止めるのではなく、多角的に見て真実を見つけることが必要だと思った。(国内参加者・男)
- ・次のアクティビティに繋がるいい内容だった。(海外参加者・男)
- ・城の歴史も、上からの景色も最高だった。(海外参加者・男)



### 【文化学習：肝高の阿麻和利バックステージツアー】

- ・鳥肌がたくさん立った(国内参加者・男)
- ・言葉が通じずとも、劇などの表現で通じることもあることがわかった。(国内参加者・男)
- ・とても感動したし、すごくカッコ良かった。ツアーを見た後は、もっとダンスを楽しんでいる。(海外参加者・女)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか。積極的にプログラムに参加できましたか】

- ・今日は伝統を学ぶ日程だったのですごく楽しめたし、沖縄の新たな魅力を見つけた感じがする。(国内参加者・女)
- ・自分だけじゃなく、グループ全員が素晴らしい。たった5日間だけれど、皆が友人であり、助け合っている。(海外参加者・男)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・歴史を紹介するとき文化を取り入れるといいんだなと思い、行動を起こしてみようと思った。(国内参加者・女)
- ・阿麻和利メンバーのように、何事も一生懸命取り組んで、伝統的なものを継承していきたいです。(国内参加者・女)
- ・もっと歴史上に残る偉大な人物について、学んでいきたい。(海外参加者・女)



## 学習プログラム[六日目] 8/7(金)

| 時間          | 内容   | 詳細             | 担当/講師      |
|-------------|------|----------------|------------|
| 09:00-12:00 | 総合学習 | 振り返り&報告会準備     | JOCA 加藤、池田 |
| 13:00-14:45 | 総合学習 | 報告会準備          |            |
| 15:00-17:45 | 文化学習 | パフォーマンスワークショップ | TAO ファクトリー |

### ■ 総合学習（報告会準備）

日時： 平成 27 年 8 月 7 日(金) 9:00 ～ 14:45

場所： 糸満青少年の家 大講堂

講師： JOCA 加藤 秀一、池田 絃子

目的： UJS の大きな目的は、「沖縄への理解と絆を深めること」、「世界のウチナーネットワークを担う人材育成」。参加者はすでにネットワークをリードしていく一員であり、今回の経験を今後どう還元していくのか、仲間と一緒に、また個人で何ができるのかを考え、報告会で発表する。5年に一度開催される世界のウチナーンチュ大会を実践の場とし、プログラムの企画を行う。

内容： 一週間の振り返り、世界のウチナーンチュ大会の企画。

結果： 様々なプログラムを通して、沖縄の自然、歴史、文化、平和、社会、移民について、理解を深めてきた参加者。毎日の振り返りシートを元に、一週間の学びについて、共有しました。具体的な学び以上に、参加者の心に残ったのは、「またみんなで会いたい」、「UJS が終わっても、皆と繋がってほしい」という気持ちです。色々なテーマで話し合い、励まし合い、絆を深めた仲間たちと、未来のウチナーネットワークを繋げるために何をしたいか、今後の世界のウチナーンチュ大会での再会を目指して、自分たちが参加したい、UJS の後輩たちに参加してもらいたい、「ウチナーンチュ大会」への企画が始まりました。



## ■ 文化学習

日時： 平成 27 年 8 月 7 日 (金) 15:00 ～ 17:45

場所： 糸満青少年の家 大講堂

講師： TAO ファクトリー 藏當 慎也氏

目的： 発表に向けて、最後の練習を行う。

結果： 8 月 3 日に引き続き、2 回目のワークショップを行いました。前日に肝高の阿麻和利の舞台を体験した参加者たちは、それまで以上に熱心に、生き生きと練習をしていました。「ダイナミック琉球」は過去 2 年間の参加者たちとの共通点(テーマソング)になり、事業終了後も音楽が耳に入った瞬間に当時の記憶が蘇るようになります。一つの目標に向かって共に取り組むことで、今年の参加者同士の仲を深めるだけでなく、参加年度を超えた繋がりをつくることを目指しました。その結果、新たな活躍の機会ができ、7 日間の学習プログラム中には OB・OG が自主的に振り付けを教えに来てくれていました。



## 学習プログラム【七日目】 8/8(土)

| 時間          | 内容          | 詳細                    | 担当/講師      |
|-------------|-------------|-----------------------|------------|
| 09:30-14:00 | 総合学習        | 報告会準備、リハーサル           | JOCA 加藤、池田 |
| 15:00-16:50 | 報告会・修了式     | グループ別発表、行動宣言<br>修了証授与 |            |
| 17:00-19:00 | フェアウェルパーティー |                       |            |

### ■ 総合学習（報告会準備）

日時： 平成 27 年 8 月 8 日(土) 9:30 ～ 14:00

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

講師： JOCA 加藤 秀一、池田 絃子

内容： 報告会リハーサル、行動宣言作成、メッセージポンチョ（互いの長所やメッセージを書き合うアクティビティ）。

結果： 前日に引き続き、報告会の準備に取り掛かりました。すでに具体的な企画を立てられているグループも多く、イラストや表を資料に追加して資料を見やすくしたり、リハーサルを重ねたりし、説得力のあるプレゼンテーションを心掛けたものに仕上げられていきました。



### ■ 報告会・修了式

日時： 平成 27 年 8 月 8 日(土) 15:00 ～ 16:50

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

目的： 一週間で学んだことの成果を報告し、各自の行動宣言を発表する。

#### 【式次第】

##### ①報告会

主催者挨拶

沖縄県知事公室

秘書広報交流統括監 新垣 秀彦

学習プログラムの振り返り

宮里 翔和、岸本 ネスター

（青年リーダー）

研修報告・行動宣言

参加者全員

## ②修了式

ジュニア大使認証状授与  
修了証授与  
感謝状授与

海外参加者  
県内参加者  
青年リーダー

～ 記念撮影～

結果： 各グループで企画した、世界のウチナーンチュ大会での取り組みを発表しました。言語や世代を越えて楽しめるスポーツ系イベントや、食文化に関するものが多く、その中でも「沖縄」が随所に取り入れられていました。例えば運動会では、「パン食い競争」ではなく、「“サーターアンダギー” 食い競争」があったり、世代を繋ぐ、「三世家族リレー」という競技を取り入れたりするなど、世界のウチナーンチュ大会にふさわしい、オリジナル運動会が提案されました。その他、次世代の交流に繋がりたいと、中高生世代の県系人が沖縄の学校に“体験入学&ホームステイ”するという企画もあり、UJSのように、同世代の中でウチナーンチュとしての輪を広げ、文化や伝統を学び合いたいというも提案がありました。

行動宣言では、「若者がもっとウチナーンチュとしてのアイデンティティーを考えるような機会を作れる人になりたい」とネットワークの担い手として活躍していく決意を伝え、そのためにも語学やコミュニケーション能力を磨きたいと、具体的な計画を宣言しました。最後に新垣統括監から修了証等が授与され、各国との架け橋となることを誓いました。



## フェアウェルパーティー

日時：平成27年8月8日(土) 17:00～19:00

場所：JICA沖縄国際センター 修了証を受け取り、満面の笑顔

目的：UJSすべての関係者に感謝の気持ちを伝え、最後の思い出となる時間を過ごす。

### 【式次第】

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1. 開会の挨拶                        | 沖縄県知事公室 広報交流課<br>交流推進監 下地 誠   |
| 2. 世界のウチナーンチュ大会<br>事務局長挨拶       | 世界のウチナーンチュ大会事務局<br>事務局長 川上 睦子   |
| 3. 乾杯の音頭                        | 沖縄パンアメリカン連合会<br>会長 大山 盛稔  |
| 4. 参加者代表挨拶                      | 上原 ありさ(興南中学校)<br>仲濱 美海(東京都立大山高校)<br>宋 宇成(韓国)                                      |
| ～ 食事・懇談～                        |   |
| 5. 参加者による余興                     |   |
| (1) 琉球舞踊                        | 仲濱 美海(東京都立大山高校)   |
| (2) 空手                          | 岸本 ネスター、芳沢 雅、阿武 真帆  |
| (3) アルゼンチンダンス                   | 安慶名 ミチエル、ウエハラ アグスティン  |
| (4) ギター演奏                       | オカネク ケンタ(メキシコ)  |
| (5) Cups                        | クック エリカ、安座間 キミエ、<br>オカネク ケンタ、岸本 ネスター  |
| (6) ペルーダンス                      | アラカキ アキラ、イシサカ イレイジョ ジェン   |
| (7) ボリビアダンス                     | 熱田 仁奈、山城 太一   |
| (8) エイサー                        | ジョセフ 海 レッドモンド(U.S.A)<br>祖堅 ラケル アケミ(ブラジル)<br>宮里 翔和、アラカキ アキラ<br>ウエハラ アグスティン、岸本 ネスター |
| (9) 参加者によるパフォーマンス<br>『ダイナミック琉球』 | 参加者全員(協力TAO Factory)  |
| 6. スライドショー<br>&贈る言葉             | 青年リーダー 宮里 翔和、岸本 ネスター  |
| 7. 閉会の挨拶                        | 事業統括 JOCA沖縄事務所 加藤 秀一<br>～ 記念撮影～   |

結果：修了式を終え、いよいよ最後のプログラムです。名残惜しさを感じながら、会場へと移動しました。下地交流監からは、「このプログラムで築いた絆と交流をさらに深めてほしい」と、沖縄パンアメリカン連合会の大山会長からは、「家族や先祖へのお礼の気持ちを忘れずに、今■の沖縄での体験を一人でも多くの人に語り継いでほしい」と、それぞれウチナーネットワークの継承を期待したお言葉を頂きました。参

加者自身も、僅か一週間のプログラムでしたが、「ウチナーンチュ精神で繋がる絆」をしっかりと感じており、「さようならではなく、これからもよろしく！」（東京都：仲濱美海）というメッセージを、みんなに贈りました。

参加者の余興も賑やかに、満面の笑顔で催され、温かい拍手が贈られました。海外参加者の勇壮な空手やエイサーに、日系社会で継承される沖縄文化を感じつつ、自分達も何か芸能を身に付けたいと感じた参加者も多くいたようです。

余興の最後には、一週間かけて練習してきた、『ダイナミック琉球』を披露しました。参加者の表情は自信に満ち溢れていて、力強く、そしてしなやかな演舞に、来場者は魅了され大きな歓声と拍手で、一週間の成長、頑張りを讃えました。

プログラムの最後に、青年リーダーの二人が作った一週間のスライドショーが流され、みんなで過ごした思い出の時間を振り返りながら、「家族」的な絆をかみしめていました。



主催者代表の挨拶



乾杯



参加者代表挨拶



創作琉球舞踊



空手



ペルーダンス



ボリビアダンス



ギター演奏



アルゼンチンダンス



Cups



エイサー



全員で踊る『ダイナミック琉球』



最後に挨拶する青年リーダーの2人



スライドショーを見て一週間を懐かしむ参加者



再会を誓って！

## アフターフォローイベントの紹介

プログラムで感じた世界のウチナーネットワークの大切さ。参加者たちが引き続きこのネットワークの継承に関わり続けられるよう、次のプログラムを実施・紹介し、参加者の学びの場、交流の場を支援しています。

### ■おきなわ世界塾「ファシリテーション～ファシリテーション・スキルを磨く～」

日時：平成27年9月26日(土)

主催：JOCA沖縄事務所

内容：良い話し合いの場を実現するために、参加者が発言し、相互交流がしやすくなるよう雰囲気をつくる“良き進行役”と言える、“ファシリテーター”。その必要性とスキルを、理論だけでなく実践的な演習を交えて学ぶ。



すべてが良かったのですが、会議をするにあたって、たくさんの役割や事前・事後の活動が大切だと知りました。【UJS2015 参加高校生：女性】

### ■青年海外協力隊50周年記念事業「つなげよう世界と地域保健のお～きなわ～戦後沖縄の地域保健・公衆衛生活動からの学びを活かして～」

日時：平成27年10月10日(土)

主催：沖縄県青年海外協力協会(0V会)

内容：公衆衛生看護師の活動、保健医療分野の青年海外協力隊の活動紹介。戦後の日本の復興プロセスと、現在の国際協力の現場プロセスの共通点を学ぶ。



初めて知ることばかりだった。戦後の初期としばらく経ってからは、患者の病状が変わっていた。ロールプレイがおもしろかった。【UJS2015 参加高校生：女性】

## ■JICA 国際協力・交流フェスティバル

日時：平成27年11月7日(土)、8日(日)

主催：JICA 沖縄国際センター

内容：県内の国際協力・交流団体が集合し、世界を感じる展示やワークショップを行うフェスティバル。その中の沖縄県のブースで、UJS2015の一週間の学びを紹介するパネルを作成し、展示した。「沖縄県の企画があったからこそ、海外のみんなと繋がることができた」、という感謝の気持ちを表わそうと、パネルの中央に沖縄県マークを表現した。フェスティバル当日は、複数の参加者が沖縄発の国際協力を学ぶと共に、ウチナージュニアディー事業について来場者に紹介していた。



### 3. 参加者感想文

## (1) 海外参加者

海外参加者の感想文については、本人が書いたものを県人会に依頼して翻訳しました。



ジョーイ 海 レッドモ  
ンド(17)  
Joseph Kai Redmond  
ワシントン州沖繩  
県人会 (U. S. A)



エリカ クック(18)  
Erika Cook  
インディアナ沖繩  
県人会 (U. S. A)

### 「UJSに参加して」

UJSに参加したことは僕の人生の中でも特に印象深く、記憶に残るものとなりました。僕はそこでこれからもずっと仲良く連絡を取り合うであろう、かけがえのない友達に出会えたし、これまで知らなかった、そして他では学べないような沖繩の文化や歴史を学ぶことができました。たくさんのプログラムの中でも特に僕の印象に残っているのはひめゆりの塔見学、首里城と勝連城跡散策、パーベキュー大会、そしてフェアウェルパーティーです。

ひめゆりの塔見学はとても悲しく、真剣に考えさせられるものではありませんでしたが、それと同時にとても興味深いものでもありました。第二次世界大戦についてはこれまで学校でも習ってきましたが、それはアメリカの視点からのもので、日本から見た戦争については全く知識がありませんでした。今回こうしてひめゆりの塔を訪れ、当時の学校や学生達が戦争に駆り出される様子などを展示や映像で見て学んだことはとてもいい勉強になりました。もしUJSに参加していなかったらこのような歴史背景を学ぶことはなかったと思います。

パーベキュー大会も楽しい思い出のひとつです。他の参加者たちと一緒に料理し、ゲームをしたことは僕のお気に入りのコマです。パーベキュー大会は、ボランティアの方々とも仲良くなるとても良い機会でもあり、彼らと話し、共に時間を共有することはとても楽しいものでした。この時僕はみんなともっと仲良くなれて、ファミリーのように感じるようになりました。

フェアウェルパーティーでは、世界各国からのダンスのパフォーマンスはとてまかっこよかったし、とても学ぶのに苦労したダイナミック琉球をみんなと踊ったのもいい思い出です。

UJSは僕にとって絶対忘れられない大切な思い出になりました。ここで出会った友達、みんなで言い合った冗談、そして培った経験は一生忘れません。チャンスがあればこれからもなんらかの形で関わっていただけらなと思います。こんなにたくさんの素敵な経験と思い出を作る機会をいただいたことにとても感謝しています。ありがとうございました。I love my UJS family!

### 「UJS参加して見つけた自分」

UJSは私の人生を変えました。沖繩に関する知識を得ただけでなく、新しい友情も増えました。学習の中で最も印象に残ったのが、沖繩戦でした。糸満にある、ひめゆりの塔の資料館に残る歴史にとても感動しました。第二次世界大戦にひめゆり学徒隊がそんなに苦しんだことを知って、私は動揺しました。私と同年の子、そして私よりも若い子たちが暗い洞窟の中で兵隊の看病をするなんて、本当に恐ろしいと思いました。若い女性たちは、本当の人生が始まる前に人生を奪われてしまいました。沖繩戦は悲劇的な出来事でした。私はこれから沖繩戦についてももっと勉強したいと思っています。

楽しかったことは、藍染めでした。私は芸術的な事にとても関心を持っているので、沖繩の伝統的な芸術を体験することができて嬉しいです。

UJSで決めた目標は、日本語が流暢になることと、ひらがなとカタカナが書けるようになることですが実は、その目標に少しずつ近づいてきたのです。UJSが終わって、大学の授業も始まりました。私はインディアナ大学に通っていて、日本語の初級レベルの授業を受けています。基本的な表現やひらがなの勉強を頑張っていて、ひらがなはもう覚えたので次はカタカナの練習です。日本語を身につけることで、他のUJSメンバーとコミュニケーションもよりよく取りたいです。

UJSのおかげで私は日本の歴史、文化、日本語の勉強にもっと努力するようになりました。そして、これから出会う人も沖繩に興味があれば、ウチナーネットワークも広げていきたいです。この企画はとてもユニークで、それに参加できて本当に感謝しています。沖繩について学んだこと、そして沖繩で一緒に一週間過ごしたみんなのことを忘れません。新しい友情と素敵な思い出はずっと大切にします。UJSは私に強いインパクトを与えてくれ、いつも私の心にあります。



安座間キミエ(16)  
Kimie Azama  
ニューヨーク沖縄  
県人会(U.S.A)



熱田 仁奈(19)  
Nina Atta  
ボリビア沖縄県人会  
(Bolivia)

### 「UJSに参加して」

沖縄での最初の週は、新しい友達を作ったりして楽しむくらいに思っていたが、32人の参加者でファミリーのようになるとは全く期待していませんでした。その上、たった一週間で予期以上の親近感が生まれました。私達はお互いにそれぞれの違う場所から集まって来て、自分達が元々はどこからの子孫なのか、という共通点をもとに強い絆で結束されていきました。

思い出として最も残ったワークショップは、アイデンティティをテーマにしたことです。それはウチナーの若者として、ウチナーアイデンティティと、ウチナーネットワークに属するという意義を確かめ合えたからです。もし私が沖縄に単に親戚を訪ねに行っただけなら、こんなに多くのことを学ぶことはできなかったでしょう。外国で育てられてきた私達は、皆それぞれ違う生活をしてきていますが、沖縄の伝統にこだわり、努力しています。私はプログラムを通して、自分のアイデンティティをしっかりと理解して、プログラムを終えることができました。

最終日には、私達は将来の為、一人一人行動宣言を作成しました。私の行動宣言は、日本語を習うことです。それは将来、同輩の参加者たちともっといろいろな対話ができる様にしたいからです。二週間の滞在中に、私はほんの少し出来る日本語でしたが、急激に上達しましたので、帰国してすぐ日本語の勉強を始めました。それから参加者たちとも連絡を取り合いながら、お互いに「ひらがな」を読むのに役立たせています。

UJSは私に忘れられない体験を与えて下さり、大変感謝しています。私は他の沖縄県系人の若者たちにもUJSに参加する様に強く勧めます。それは参加することによって私が体験した様に、同じく凄い冒険をし、ウチナーネットワークの彼ら自分の役割を理解できるからです。

### 「UJSに参加して見つけた自分」

今回、ウチナージュニアスタディー事業に参加することができ、とても貴重な二週間を体験することができました。テレビや雑誌等でしか見てなかった沖縄への旅行は初めてで、とても胸が弾んでいたのを覚えています。

まず初めに沖縄の暑さに驚きました。ボリビアと気候が似てると聞いていたのですが、全然沖縄の方が暑くて、タオルや飲み物、帽子が欠かせませんでした。そして、一番見たかった海を自分の目で見えた時、想像以上に綺麗でとても感動しました。ボリビアでは普段見ることができない海をどこへ行ってもそれを見れる沖縄はいいなあと思いました。

UJSプログラム初日は、緊張と不安でいっぱいでしたが、楽しいレクリエーションのおかげですぐに距離を縮めることができました。一週間参加者のみんなと糸満青少年の家で一緒に生活して、衝撃的だったのはシャワーの時間でした。みんな共同シャワーに慣れていて、恥ずかしがらずに堂々と入っていたことです。私はやっぱり恥ずかしくて入ることができませんでした。ひめゆり資料館で見た戦争時代のビデオがとても衝撃的ですので印象に残っています。おじい、おばあがこんな残酷な時代を乗り越えてきたと思うと、今の私達がこうやって普通の生活を送れているのはとても幸せなことだと感じ、もう二度とあんなことが起こってはいけないと強く思いました。

そして、この研修でこんな言葉を言われました。『自然がどんなに綺麗でも、人が良くないと良い思い出にはならない。』私は本当にそうだなと思い心が打たれました。沖縄で出会った人達はみんな初対面でもとても話やすく、親切で、心が温かい人達ばかりでした。素晴らしい自然と素晴らしい人達に囲まれて過ごした二週間は忘れられない最高の思い出になりました。この研修で私は改めてウチナーンチュとして誇りに思い、最高の学びを得られたと思います。この経験を生かし、次世代の人達に伝えていき、この素晴らしい研修を体験して欲しいです。また絶対沖縄に戻ります！いっぺーにふえーで一びる！



山城 太一(16)  
Taichi Yamashiro  
ボリビア沖縄県人会  
(Bolivia)



新垣 アキラ(18)  
Akira Arakaki  
ペルー沖縄県人会  
(Peru)

### 「今なにができるか」

今年、UJSに参加することで、幼いころから持っていた沖縄へ行くという夢がかないました。UJSに応募するのは今回で二回目でした。三月ぐらいに県人会に作文を出し、面接も受け、五月ごろに合格の連絡が来ました。子供のころからの夢だったので、その時はとても嬉しかったです。もう一人のボリビア代表の参加者と国の発表など、ダンスや外国の参加者と交換するためのプレゼントなどの準備をたくさんしました。

一週目はホームステイ先のお婆さんの家に泊まり、ボリビアで知り合った派遣教師の先生たちと会ったり、僕の祖父の出身地の伊江島にも行くことができました。

UJSでは、グループに分かれてたくさんワークショップをしました。外国の移民の話や聞いたこと、一人一人のウチナーンチュとしてのアイデンティティを聞いたり話したりすることができました。こういうワークショップでは、みんなの話や意見を交換ができたので、とても良かったです。みんなで海にも行きました。3、4回はホームステイの家族と海には行ったことがありますが、沖縄の海は最高に美しいので何回行ってもあきないくらいキレイな景色でした。そして自由時間には体育館でスポーツをしたり、みんなでトランプゲームをしたり、話をしたりしました。UJSのアクティビティの中で一番好きだったのが、ダイナミック琉球の踊りでした。最初は難しかったですが、とても楽しかったです。

UJSに参加し、僕がウチナーンチュとして、今何ができるかがちょっとずつわかってきました。世界中のウチナーンチュと友達になり、ウチナーネットワークを深め、ウチナーの文化と歴史がなくなってしまうのを、今の僕たちのすべきことだと思います。この気持ちを後輩たちに伝え、ボリビアと沖縄だけでなく、世界中とのかけ橋になるよう頑張ります。

僕の夢が叶えてくれた県人会の皆さん、UJSのスタッフの皆さん、お父さん、お母さん、イッペーニフェデービル。

### 「UJSに参加して見つけた自分」

まず、ツアーが終わって1カ月が過ぎた今でも、とても素敵なプログラムに沖縄で参加できたんだとまだ信じきれないです。ホームステイやツアー期間中にとっても素敵な時間を過ごせるとは、出発前は夢にも思っていませんでした。でも確かに僕は、沖縄が大好きになりました。みんな大好きだし、みんなと過ごせた美しい記憶、それに言葉の壁なんて関係ありませんでした。それが無くても僕達はお互いを身近に感じて、この友情は一生だと思えます。

次に、ツアー中に参加者と一緒に居れたことと、沖縄の文化に囲まれていた事このシンプルなことがとても気に入りました。例えば、首里城、ビーチ、肝高の阿麻和利のバックステージツアーにひめゆりの塔。これらの場所はとても特別に感じ、そこに行けたのがとてもラッキーだと思いました。そしてUJSは素敵な仲間と出逢えたり、会ったことのない親戚達とも会えました。また、色々な文化を学んだり、素敵な人達と出会えました。

アクションプランについてはソーシャルネットワークを構築していくことです。ウチナーンチュとの絆を作っていくことで、文化をもっと知っていくことが出来ると思っています。UJSの後からチャットグループでみんなと話しています。僕はとてもこの技術を使えている事が嬉しいです。自分の夢が1日でも早く叶えられるように、僕のアイデアを展開していきたいです。



イサカ イレイジョ ニコル  
ジュン(19)  
Ishisaka Ireijo  
Nicole Juun  
ペルー沖縄県人会(Peru)



大兼久 健太(15)  
Kenta Okaneku  
メキシコ沖縄県人会  
(Mexico)

### 「忘れられない経験」

まず初めに、このプログラム「ウチナージュニアスタディー」に参加出来た事で一番心に残ってる思い出は、知り合った一人一人の温もりでした。このプログラムの参加者だけではなく、この機会に関わった全ての人たちでした。温もりと言いますと、人に対しての優しさや気配りな心を持つ事だと思います。例をあげると、糸満市場へ行った時に働いていた人たち皆がとても丁寧、そして優しく接してくれて、私は感謝の気持ちでいっぱいになりました。

もう一つの思い出、たくさんの感情を抱いた活動は平和の礎へ行った時の事です。初めは私の家族の名前が見つからないかと苦悩して悲しくなりました。けれどももう一方では、嬉しい気持ちでいっぱいでした。私が家族の名前を見つけられない事に気づいてくれた友達は、一生懸命に私の家族の名前を探してくれたのです。最後の最後まで探してくれたおかげで、家族の名前が見つかりました。今でもその事に対してとても感謝しています。このプログラム中に出来た友達は一生忘れません。参加者一人一人からたくさん学びました。一週間では参加者みんなの事を知るのには正直短すぎる期間でしたが、その中で出来た友達と連絡を取り合って少しずつですが、知り合っています。この友情がいつまでも続く事を心から願っています。

プログラムに関してはとても重要な経験だと思いました。文化や人としての成長する事を学びました。このプログラムに参加してから私は人として少し変わったかと思います。なぜかと言うと、沖縄の文化に誇りを持つ事ができ、自分自身にも自信を持つ事が出来たからです。この「変わった自分」が将来にいい影響を与えたいと思います。

最後に、私が今立ててる実行計画についてですが、そう簡単には達成できない事がわかりました。沖縄語をもっと知る為にはちゃんと日本語から学ばなければならないと思ったからです。日本語を今以上に学んでいるんな道を開ければいいと思います。

### 「私のUJSの経験」

私はこの夏をUJSで過ごしました。私の人生でも最高の夏となりました。これまでの人生で経験したことないプログラム、知らない人たち、テーマ、しかし実際そういう心配もすぐに楽しいものへと変わりました。

この旅行で得た友情も私の人生でかけがえのないものとなりました。言語や習慣の違いがあったにもかかわらず、たった一週間を過ごしただけなのに、参加した皆を兄弟のように感じています。結果、遠く離れている現在でもソーシャルメディアのグループによってコンタクトを取り続けています。

教わったことは、どれも忘れがたいものとなっています。授業やアクティビティ、それら全てが、私のルーツが沖縄人であることを感じさせました。このプログラムを経験し、今私は、私たちのルーツや伝統を知ることによって貢献できる職業に就きたいと思うようになりました。ウチナーンチュの文化や伝統を研究、発信できるような職業に。しかし私のゴールはそれに留まらず、世界中のウチナーンチュが沖縄の伝統に誇りを持つようにさせることです。今年の8月まで、このような気持ちになったことはありませんでした。これまでも沖縄には2度訪れていますが、そういうことは無かったです。今回のプログラムで沖縄文化の重要な地を訪れたことが、私にそういう気持ちにさせたのだと思います。

このようなプログラムに参加できたことに感謝しています。これから更に自分のルーツを探っていきたいと思っています。



知念 アマンダ(15)  
Amanda Chinen  
ブラジル沖縄県人会  
(Brazil)



高安 ジュリオ ヒロマサ(17)  
Julio Hiromasa  
Takayasu  
ブラジル沖縄県人会  
(Brazil)

### 「いっぺーにふえーで一びる」

私はこれまで学校で勉強して、時々追加講座など受講したりしていましたが、UJSに参加してこれまでよりも深く理解することが出来ました。他の参加者の生活や人生、そして沖縄に暮らす人々の生活は、とても興味深く、それらを知ることによって、新たな世界観とともに帰ってくる事が出来ました。そして、世界はこれまで私が想像していたものよりも大きいという事がわかりました。沖縄の文化は、私の身の回りに溢れているので、沖縄に到着したとき、まるで故郷にいるように感じました。優しく、よく笑う沖縄の人々は、私を感激させました。中でも、団結といちやりばちよーでの精神は、私の関心を強くひきました。人、文化、歴史、そして海、それらを越えて、私は、沖縄出身の家系であるということをととても誇りに思います。

沖縄の文化を日常生活でも活かして、私自身、明るくなり、沖縄の文化に助けられているようでした。家族も私がこれまで以上に意欲的に日本語や三線を習いたいという意欲に気が付いたようです。また、私は、歴史教育を沖縄で学び、改めて沖縄戦時、看護婦だった祖母を尊敬しました。UJSに参加するまでは、戦禍に巻き込まれた人々がどれほど苦しんでいたかを想像することはできませんでしたが、とても恐怖を感じました。平和学習をとおして得ることが出来た知識を学校での学習へ活かすこともできました。

知識の違いを越えて、私は多くの友達が出来、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。共に笑い、遊び、歌い・・・共に抱き合ったことも、それぞれの言語での「ありがとう」もすべて覚えています。今でも思い出すと寂しくなりますが、また絶対に再会します。UJSは、私のこれまでの人生で最高のものでした。もし、「沖縄に行きたい」という人がいれば、私は誰よりも早くこう言います。「絶対に行った方がいい！行って後悔はしないよ！」って。

今、私はジャーナリストになりたいと確信しました。それは、世界中の文化を見て回りたいということもそうですが、一番は、私の文化、沖縄がどれほど美しいかを世界中に伝えたいです。「ジャーナリストになる」という私の中での確信は、UJSに参加して見つけたものです。

### 「UJSは一生の思い出」

僕の人生の中で一番思い出深い経験をどうまとめたらいいのでしょうか。

僕は今まで、自分のパーソナリティについて、なぜ自分の故郷の文化が合わないときがあるのだろうか、ということを理解しようとしてきました。今回のツアーを通してその答えがはっきりわかりました。

初日に、今回のプログラムでの目標を決めるようにと言われとき、正直何も思い浮かばず、困惑しました。その目標を見つけることはとても興味深いものではありませんでしたが、僕はアイデンティティーのワークショップまで見つけることができませんでした。そのワークショップは、円の中に、自分が何人であるのかを円グラフにして表すものでした。僕はこのアクティビティーのゴールがわからなかったのですが、ただふと、僕自身が日本の文化よりもウチナーンチュの文化を多く持っているということが思い浮かびました。それに気づいてから、すべてのプログラムがより意味のあるものだとわかりました。僕はこれまで日本人の固定観念を持って育ってきていて、そのために故郷の文化に距離を感じていたけれど、今はもっと自分の文化を理解できると思います。

このプログラムで男子メンバーが僕をすぐ受け入れてくれて、とても居心地がよかったです。沖縄の精神は少し違うと思います。そこで感じた確かな強い絆こそが「いちやりばちよーでー」なんだと。そしてそれは金銭的なことや悪い空気がないとてもピュアな関係を築くことができたと思います。

また、いつも気にかけてくれたフレンドリーなスタッフの皆様、僕の願い叶えてくれて本当にありがとうございます。



祖堅 ラケル アケミ(13)  
Raquel Akemi Soken  
カンポグランデ沖縄県  
人会  
(Brazil)



上原 アグスティン(18)  
Agustin Uehara  
在亜沖縄県人連合会  
(Argentine)

### 「沖縄を知ること、これまでの人生で一番最高の経験でした」

7月24日、私はこの日を生涯忘れることはないでしょう。なぜなら全く新しい経験をしたからです。飛行機に乗ったのも初めてでしたし、海外にでるのも初めての経験でした。多くの人々に出会えたこと、美しい海に行ったこと、そして沖縄について深く知ることが出来たことは、私のたくさの初めての経験のなかでも、素晴らしいことです。沖縄は、日本の中で最も小さな島国ですが、そこには物語と、魅力、友好的な人々に溢れおり、そしてその島が、私の祖先の故郷なのです。

ホームステイについては、感謝の気持ちでいっぱいです。私が滞在した名護市は自然の美しさが溢れ、穏やかで、静かな町でした。ホストファミリーは、親切でいつも気にかけてくれましたし、とても仲が良かったです。私はたくさんの素晴らしい場所を訪問し、ビーチパーティーで踊ったり、花火をしたり、エイサー演舞を見たり、その地域の伝統的な料理を体験したりするなど、たくさんの経験をする事が出来ました。

ホームステイが終わり、1週間の冒険と新たな友達と、たくさんの学びのつまったプログラムが始まりました。私はとても緊張し、わくわくしていました。

世界中から集まったうな一若者の若者と共に過ごし、様々なことについて知る機会を持つことができたのは、UJSに参加したからです。『いざりばよーでー』という言葉の真の意味について感じることが出来ました。参加者のみならずスタッフのみならずの事を想うと寂しくなります。いつの日か戻りたいと思います。ワークショップや訪問先については、どれもとても楽しく有益でした。それらは曾祖母、祖父母について思い出させ、思いを馳せました。特に思い出深い場所は、平和祈念資料館とひめゆり祈念資料館です。ワークショップの一番の思い出は、皆で踊ったダイナミック琉球です。最もためになった講義は、アルトゥロさんの話でした。

私は将来、日本語とほかの言語について学びたいと思っているの、その目標を成すために、日常会話をもっと頑張りたいかなと思いました。最後に、ご支援いただき、ありがとうございました。

### 「ウチナーの心」

UJSが行われた1週間は一生わすれません。素敵なお人達に出逢えたり、知らなかった沖縄について沢山のことを学べました。

プログラムの期間中、様々な活動をしました。首里城や勝連城跡、ひめゆりの塔など色々なところへ行きましたが、全ての場所で沖縄のこと、過去を学ぶことが出来ました。

特にひめゆりの塔で見たビデオはとても心に響き、何故平和は守っていかなければならないのかななどをとても考えさせられたと同時に、今ある命に感謝しました。また、アイデンティティーのワークショップをした時に、みんな違う場所に住んでいるのに同じ気持ちをみんな共有していてとても驚きました。それに藍染体験やダイナミック琉球のダンスをしました。そして肝高の阿麻和利バックステージツアーを見る機会があり、肝高メンバーと一緒に踊ったダイナミック琉球は最高でした。

UJSの中で一番印象に残っているのが、最初はみんな知らなかったのに日が経つにつれて昔から知っていたような感覚になり、それが今でも続いているので、自分でも驚いています。

そして、プログラムの最後にいくつかの目標を決めました。一つ目は参加者やスタッフのみんなとソーシャルネットワークを使って連絡を取り合うこと。そして、沖縄のアイデンティティーや文化にも興味を持ったので、アルゼンチンで若者に伝えていき、今習っているエイサーを通して知り合った若者に、ニーセーターの様に参加者になって欲しいです。そして最後は沖縄に戻ってウチナーンチュ大会に参加したいです。

よくあの1週間を思い出し、笑っています。毎日いろんなことを体験し、夜は部屋でみんな笑ってました。そんな日々を送っていて、ウチナーンチュのアイデンティティーがあることに誇りが持てました。

最後にこのプログラム携わった皆さん、ありがとうございます。また会えるのを楽しみにしています。



安慶名 ミチエル(15)  
Michelle Agena  
在亜沖縄県人連合会  
(Argentine)



金城 巴奈(13)  
Hana Kinjo  
マレーシア沖縄会  
(Malaysia)

### 「UJSでの体験」

ウチナージュニアスタディーで沖縄のたくさんの方のことを学びました。首里城と勝連城の見学で歴史を知りました。

いろいろな国の仲間たちは、おじいちゃんとおばあちゃんのことを沖縄の参加者と話しながら、みなさんの生活と伝統的な食べ物と文化も習いました。

ウチナージュニアスタディーのプログラムの中にいろいろなきもちがありました。ひめゆりの塔へ行ったとき、一番感動するところでした。戦争にいた人たちはとてもかなしかったです。

でも、たのしいこともありました。海岸であそんだり、バスでドライブに行ったり、BBQも食べたりしました。

参加者に初めて会ったとき、みんなはずかしい気持ちでしたが、毎日知らないことばでも、ゆっくり手ぶりで話しました。英語と日本語をまぜて話しました。すごかったのしかったです。ですから、ちがう国から来ても、みんな同じかんじ、同じ考え方でした。

みんな友だちになって、最後はわかれビデオを見ながら、みんな泣いて、帰りがたくなかったです。

UJSをして、沖縄文化と私たちの先祖を守らなければならないと思います。もっと沖縄文化を勉強しなければなりません。それで、国へ帰って、日本語の勉強をつづけて、エイサーとさんしんの練習も続けると思います。

このプログラムは私にとって、とても勉強になって、大切ですばらしい経験だったと思います。

### 「ウチナージュニアスタディーに参加して見つけた自分」

UJSに参加して一番学んだことは、すべてにおいて規律があり、また自分の視野が広がった事です。また、沖縄の文化や歴史も学べました。日本の文化は全くマレーシアと違っていましたし、学んだ規律は私の日常生活に役立ったと思っています。

このプログラムに参加して一番楽しめた事は、世界中から集まった人たちに出会えたこと、また県出身者が思っていた以上に開放的でフレンドリーな人たちだったことです。

また、沖縄が他の県と違っている点はユニークかつ複雑な歴史が影響している事、変わった名字、快適な気候、美味しい食べ物、寛大な心の持ち主が沢山いることもあると思います。

ひめゆり祈念館を訪問して学んだことも非常にインパクトが大きかったです。ビデオを通して映し出された惨状、私と年齢が変わらない女学生が過酷な労働を強いられ、血、尿、汗の混じった洞窟でケガをした兵隊さんたちの世話をしなければいけなかった時代。そんな中で命を落としていった女の子たち。彼女たちをあまりにも酷い状況に追い込んだ日本人兵隊に怒りを覚えると共に、大好きな学校を去ってそんな仕事に従事しなければいけなかった女の子たちの事を思うと気の毒でした。また仲間が死んでいくのを目の当たりにした彼女たちの気持ちを思うと悲しくなりました。

現在私たちは、そのような地獄また拷問のような経験することもないので、本当に幸せだと思います。ですから、戦争、飢餓、死への恐怖、友人を助けることができなかつた罪悪感も経験する必要のない、恵まれた平和な現在を感謝すべきであると思いました。

平和の大事さを伝える為にこのプログラムがもっと多くの人に行き渡ることを祈っていますし、世界に散らばるウチナーンチュがプログラムを経験してもっと結末できることを願っています。



宋 宇成(14)  
Song Woosung  
韓国沖縄県人会  
(Korea)



岸本 ネスター(20)  
Nester Kishimoto  
ワシントン DC 沖縄会  
(U. S. A)

### 「UJSに参加して」

このプログラムを通して感じたことは、言葉の重要性とウチナンチュウの子孫がどのくらいいっぱいいて、どのくらい広く広まっているかを感じました。

僕にとって一番良かった事は、いろんな国からいろんな人たちが来て一緒に過ごした事で、外国語の勉強をもっと頑張れるきっかけを作ってくれました。一緒に過ごした外国人参加者とも友達になれて、今でも連絡を取りながら外国語の勉強をやっています。

僕がこのプログラムに参加するときは、韓国からの参加者が僕しかいなかったのでも思ったより簡単に参加することができましたが、違う海外参加者たちは自分以外に何人かいたそうです。それでぼくは韓国が違う国より沖縄県人会などの活動が少ないという事に気づきました。最初は韓国にウチナンチュウがいないからかな？と思っていたけど、そうじゃなく、韓国にもウチナンチュウがいるけどごく少力で、そのごく少力のウチナンチュウたちは韓国に沖縄県人会などがあるという事も知らない事を知りました。こんな良いプログラムなどがあるのに知らないということは大きな損だなと思いました。

参加して最初の日に韓国人の参加者は僕しかいないし、日本語も下手で話をかけられなかったのですが、後から参加者たちが気遣ってくれてすぐ家族のように仲良くなれました。

参加者たちと会話をする時に県内参加者とは無理なしで会話ができただけで、海外参加者たちは英語を使っていたので話をするのが難しかったけど、下手な英語でも聞いてくれたし話かけてくれて嬉しかったです。

### 「UJSで得たこと」

まず初めに、2015年のUJSに参加しての感想は、いろんな感情が入り混じって言葉にするのが難しいです。

青年リーダーとしては、UJSがどの様に企画され、運営しているのかが知る事が出来ました。しかし、僕の予想をはるかに上回る結果得られました。初日に参加者同士を知るが出来る様、いくつかのアイスブレイクのゲームをしました。その時に初めて会ったメンバーだけではなく、アルゼンチンからの参加者であったアグスティンそしてペルーからの参加者のアキラを知っていて、素晴らしい再会になりました。

アクションプランはいいリーダーで居続ける事と友達を作る事です。参加者達は最初の目標であった、僕が何を言っているのかをほとんど聞いてくれました。そして積極的に行動した結果、インディアナ州から参加していたエリカと仲良くなる事ができました。そして言葉の壁はみんなの努力によってお互いが何を言っているのか頑張って理解しようとしていました。それを踏まえ、僕たちの絆「いちやりばちよーでー」の精神で深まったと思います。

ウチナージュニアスタディーが次世代の若者をウチナンチュウとしての文化なくして語れないと思います。もちろん本を読んだりしたり沖縄に来たりして勉強する事は可能ですが、それは沖縄を勉強しているだけであり、本当のウチナンチュウではないです。このツアーでは1週間各15名の海外参加者、県内参加者、2人の青年リーダーそして素敵なスタッフや、ボランティアのメンバーで過ごしていくことで知れることがあります。そして参加者にとってこの経験が、彼らの人生を変えるかけがえのないものになった事には間違いないと思います。

とてもウチナージュニアスタディーを楽しむ事ができたし、できるのであれば毎年参加したいです。もしこのプログラムが世界中に知られる事ができたら、世界平和になると思う僕は野心家と呼ばれるかもしれないですね。最後に世界中に家族ができた事に感謝します。

## (2) 県内参加者



饒平名 美妃(14)  
Miki Yohena  
普天間中学校 3年

### 「UJSに参加して見つけた自分」

私はUJSに参加して、改めて自分自身を見直すことができました。なぜかという、実際この事業を通して、思った以上に自分自身の考えを言葉に表しきれなかったり、積極的に話しかけても通じなかったりという事がありました。また、海外参加者は母国の言葉以外にも喋れる人もいたり、私たちよりも沖縄について知っている人もいました。そんな何もできない自分に悔しさが残りました。でもこのような経験をしたからこそ、改めて自分自身を見つめ直すきっかけとなりました。そして、もっと国際関係について興味深く意識を持つようになったり、国際交流のために、人に役立つ人間になりたいと思うようになりました。また、ウチナーンチュとして、もっと色々な人に沖縄の魅力を伝えられる人になりたいなと思いました。

このようなことを通して、また最終日の報告会で発表した《行動宣言》の通り「日ごろから日常生活を英語で話す。」このことを日々心がけて過ごしてきました。そして、まずできることから始めました。夏休みが終わり、学校が始まると共に、学校で友達と会話をする時は日本語をできるだけ使わない！また、塾の先生と会話するときにはできるだけ英語を使う！ということ意識し、自分から積極的に英語を使ったり、少しずつではありますが日々行動宣言に、近づくよう努力しています。

またこの事業の最後のフェアウェルパーティーで皆で踊ったパフォーマンスは国籍関係なく、ウチナーンチュとしての魂そして、皆の気持ちが一つになった最高のパフォーマンスとなりました。

7日間という短い時間でしたが、このプログラムを通して皆と深い絆で結ばれたことは私にとって一生の宝物であり、これからの私の人生を大きく変えてくれるそういう機会でした。



神里 晏朱 (15)  
Anjyu Kamizato  
昭和薬科大学付属  
中学校 3年

### 「思い出は宝物」

まず初めに私はこの事業に参加し、多くの仲間と共にたくさんの学習プログラムを通して沖縄についての理解を深め、短い期間でしたがその間に強い絆を培うことが出来て、とてもうれしく思っています。また、この事業に関わったすべての人に感謝します。

沖縄についてもっと知りたいという一心で私はこの事業に臨みました。学習プログラムを重ねていく中、沖縄の歴史や文化など私が今まで知らなかったことや、疑問に思っていたことを知り、学べたことは確かです。ところが、初日から私が体感したのはいわゆる言語の壁というものでした。私は普段学校で文法的な英語を学んでいる事ではしか、英語と触れ合う機会はありません。海外参加者との意思疎通は手くいくものばかりではありませんでした。日付けを迫るごとに段々と英語で会話をするにも慣れてきて、お互いに理解できるようになったのは良かったです。その感覚を忘れないようにもこれからは行動宣言でも発表した通り、今回新しくできた友達と英語でメールをしたり、会話について勉強していきたいと強く思っています。

また、私はこの事業の参加者全員に共通していることを見つけることが出来ました。それは一人一人がウチナーンチュとしての自覚や精神をもっているという点です。“私は何人”というテーマでの講義の中実際に紙に自分自身の考えを図化したときに皆がウチナーンチュと書いていて私は感動しました。海外参加者は住んでいる所は違うけれども、そういう意識を持っていることを知り私はウチナーンチュであるということにより誇りを持たせた気がしました。外国に移民していった沖縄の祖先たちのおかげで、ウチナーネットワークは世界各国に広まっています。私もその一員としてもっと沖縄に対する思いと知識を比例するようになりたいです。そして中身の濃い7日間は私の思い出でもあり、また一生の宝物です。



喜納 彩(14)  
Sayaka Kina  
那覇中学校3年

### 「初めて得たもの」

まず初めに、この研修に参加できて沢山の「初めて」の体験が出来ました。あの仲間と研修に参加できた私は幸せ者だと思います。

研修日当日は初めての長期研修、初めての海外の人との関わりで不安で胸が一杯でした。しかし、いざ研修になると海外参加者の皆さんが母国の事や各国の挨拶などを私達のために簡単な英語で伝えてくれる優しさや配慮にとても心が温かくなりました。

ビーチレクや外食ももちろん楽しかったのですが、私は、「私は何人？」や「平和について」等の意見交換をする研修がとても楽しかったです。理由は、皆積極的に意見や反論を出してきて新鮮だったからです。このような充実した話し合いは、普段の生活では体験できなかったと思います。相手の意見と反対の事をいう事は勇気のいる事です。それを当たり前のようにできる海外参加者を私は学校でも手本にして行動しています。

私にとって一つ衝撃だった事があります。男女関係なく接してくる海外参加者の行動です。異性が「一緒に写真撮ろう」と声をかけてくれたり、肩を組んで歩いたり、それを日本人で出来る人は少ないのではないのでしょうか？オープンな行動は距離が縮まり仲良くなれる、と私は身をもって感じました。

研修後に私は、海外参加者の皆と英語や他の言語がもっと話せていたらもっと交流できたのかもしれないと思いました。そのような事を踏まえて私は、世界に出てもうちな～んちゅの事を伝えられる人になるという行動目標を立てました。今は英語をコツコツ学んでいます。これから他の言語も学ぶつもりです。

UJSの皆に次会う時のため、この研修で得られた事を磨きコミュニケーションがとれる人に成りたいです。

UJSのメンバーは家族だと言っていました、その通りだと思います。私のにとってこの研修で得られた事は何にも変えられない宝物です。このような研修に参加させて頂きありがとうございました。



上原 ありさ (13)  
Arisa Uehara  
興南中学校2年

### 「UJSに参加して見つけた自分」

この夏、ウチナージュニアスタディーに参加した一週間で、とても貴重な経験をすることができました。

一週間、県内や県外、海外のウチナーンチュと過ごし、たくさんの人と友達になることができました。しかし、海外の人と、なかなか言葉が通じず、何度も悔しい思いをしました。そのため、もっと英語など語学について学びたいという意識を持つことができました。

共同生活では、たくさんの方の思いやりに触れることができ、感動しました。言葉が伝わらないときは、私が理解しやすいように、簡単な英語や、ジェスチャーで伝えてくれました。それだけではなく、いろんな優しさを実感しました。私は、相手を思いやる事がどれほど大切なことかを知ることができ、改めてその意味を深く考えることができました。

そして、沖縄についてたくさん学ぶことで私の沖縄に対する思いを深め、私自身のウチナーアイデンティティーを確立させることができました。

私は、この事業に参加し、学んで感じたことや、考えたことの全てが新しい自分を作り出すことができ、その成長を実感しています。今回見つけた、新しい自分をもっと成長できるようにしていきたいと思います。

そのために、今生活しているなかで様々なことに目を向けて、視野を広げていきたいです。もっと語学を勉強して、今回出会えたたくさんの友達と話したり、世界に沖縄の魅力を発信していきたいです。将来は、ウチナーネットワークの担い手となり、日本だけでなく世界に貢献できる人になりたいと思います。





城間 咲(17)  
Saki Shiroma  
北谷高校 3年

### 「出会いに感謝」

私は、沖縄に住んでいるのに沖縄の事を知らない事が多く、沖縄の伝統文化であるエイサーや三線、空手が出来ない私、しかし、海外参加者たちは空手や三線ができる人がいて、私自身ウチナーチュとしてもっと沖縄の事について学ぶべきだと考えさせられました。ウチナーンチュとしての心を持つ海外参加者たちは、沖縄の歌を歌ったりして沖縄のことがとても好きで誇りに思っていると感じました。

私は、今まで優柔不断な性格であり物事を発言しない性格でした。しかし、この一週間を過ごしグループが私にとって、自分自身を成長させました。グループ学習では、沖縄戦について考える移民学習のテーマがあり、意見をたくさん発言する事ができ、海外参加者の戦争に対する意見も聞いて普段、海外の人と関わる機会がないので良い経験になりました。また、将来の夢も語る事ができ、同じグループの人の夢も聞いて互いに違う国だけど今後、一生懸命に頑張る夢を叶えたいという気持ちが強くなりました。また、積極的にコミュニケーションをとる力が強くなったと思います。初日は緊張して、一日が過ぎるごとに緊張がほぐれて簡単な英語で海外参加者に話かけ一緒に行動し、毎日が充実した日々で一日の時間が早く感じる中、時間も一週間と限られており仲が深まる中であと残りわずかな時間を大切にみんなと過ごしました。レクリエーションやダイナミック琉球は団結して出来たと思います。阿麻和利の踊りは難しく、寝る前に県内参加者と海外参加者と一緒に練習しました。最終日は良いパフォーマンスになったと思います。

報告会で「行動宣言」を行い研修後、自ら努力し英語を学び、大学に合格する目標は英語での面接練習に取り組んでいます。今後は英語能力の上達を目指し日々努力します。

この一週間、自ら積極的に話し人前に出て発表するなど、参加してとても良かったです。



友寄 奈美紀(16)  
Namiki Tomoyose  
宜野湾高校 2年

### 「UJSに参加して」

ウチナージュニアスタディー事業に参加したこの夏の一週間は刺激的でとても新鮮な一週間でした。たくさんのワークショップやプログラムで沖縄の歴史や文化について学んだり肌で感じたりしてとても勉強になりました。それと同時に私は沖縄に住んでいながら沖縄のことを全然知らないんだなあ実感し、自分は何をやっているのだろうと恥ずかしくなりました。でもその事を知れたおかげで、もっと勉強しようという気持ちが強くなりました。

また、それぞれ出身国は違ってもみんなに共通する思いや考えがあったり一人一人意見が違ったりして、とても考えさせられることも多くありました。意見を伝えたい時や相手と話したいときは、お互いに言語が違うので苦労することもありましたが、精一杯の英語やジェスチャーでなんとか伝えようと努力をしました。このことがきっかけで私は英語をもっと流暢に話したいと強く感じ、ジュニアスタディーが終わった今でも海外参加者と英語でSNSで会話をしたり、毎日欠かさず英語の勉強に励んでいます。また海外参加者のなかには英語やスペイン語、日本語などたくさんの言語を話せる友達もいてとてもかっこよく思いました。いつか海外参加者のみんなとスペイン語や英語で会話をするのが私の夢です。

この事業に参加したことは私自身の視野や考えを大きく広げるきっかけとなり、とてもいい刺激になりました。将来のことや今やりたいことをもう一度見つめ直すこともできたし、新しいことに目を向けることもできました。また、素晴らしい仲間がたくさんできました。一週間、衣食住を共にしたことで本当に家族のような存在となり別れるのはとても寂しかったですがそれぞれの場所でみんな頑張っていると思えば自然と自分も頑張れます。そして何年後かにまたみんなと再会したいなあと思いました。私はこの事業に参加することができて本当に本当に良かったです。

今回UJSに参加して得たことを活かしこれからの学校生活や将来を有意義に過ごしていきたいです。



眞壁 純也 (16)  
Jyunya Makabe  
陽明高校 2年

### 「私の目標」

私は、このウチナージュニアスタディ事業に参加し、多くのことを学ぶことが出来ました。

一つは、沖縄戦についてです。ひめゆり資料館でのワークショップで、沖縄戦についての話し合いをしました。その時の海外参加者の感想、意見などがしっかりしていて、自分の感想や意見を共有し、さらに皆の感想や意見を共有出来たので、自分の中では大きなプラスとなりました。もう一つは、移民についてです。私は、アルトゥーロさんのおばあちゃんの移民先での苦難の話聞いて、とても驚き、感動しました。その中でも、「どんなつらい状況でも、諦めちゃいけない」という言葉が、胸にささりました。この話をたくさんの人に広めていきたい、と思いました。

最後は、「いちやりばちよーでー」です。これは、ジュニアスタディに参加した皆から学ぶことが出来ました。人見知りのところがある私でしたが、皆が声をかけてくれて、次第に仲良くなっていきました。それも、家族同然のように。私はそこで、「いちやりばちよーでー」とはこういうことなんだと、学ぶことが出来ました。とても大きな家族が出来たようで、とても楽しかったです。

今回の事業で、多くのことを学ぶことが出来ました。同時に、通訳士になるという夢も出来ました。その夢に向けて、まずは、英検準二級合格のため、勉強しています。

このような形で、今、出来ることから、コツコツやっていきたいです。そして、皆との再会のために、これからもがんばっていきます。



久高 拓也 (17)  
Takuya Kudaka  
首里東高校 3年

### 「目標実現に向けて」

私は、UJSに参加して、1つの目標ができました。社会科教師になり、沖縄をより多くの人に伝えるという目標です。UJSの参加者は、沖縄の事を知りたい、学びたいという同じ気持ちでそれぞれ持っていました。6泊7日という長い期間で、首里城、ひめゆりの塔、平和の礎、糸満道の駅、子供の国、勝連城跡に足を運びました。そこで感じた事を自分だけに留まらず友達に伝える、また、友達の意見を聞くことによって更に視野を広げることができ、理解する力を身に付けることが出来ました。私にとって、フィールドワークは刺激的で、沖縄についてさらに深く学びたいと思いました。

現在は、社会科教師になり沖縄の事をより多くの人に伝えるという目標を実現させるために、新聞を読んで情報を蓄えたり、沖縄にある9つの世界文化遺産巡りを実行中です。その大きな理由として、誰かに伝えるには経験や知識が必要だと思うからです。これからも目標実現のために努力を続けていきたいと思います。ウチナージュニアスタディ参加当初は、国内参加者、海外参加者共に初めて会う人で仲良くなれるか不安でした。しかし、ボランティアやスタッフ、通訳の方々のサポートもあり仲良くなるまでに時間は掛かりませんでした。企画中に誕生日を迎える人を、みんなで祝うこともでき、とても幸せでした。

私は、UJSに参加して日々を充実させることが出来ました。来年に行われる世界のウチナーンチュ大会では、もう一度同じメンバーで集まれることを楽しみに願い、行動宣言のもと次回は、英語で交流出来るよう、努力していきたいです。一週間ありがとうございました。



阿武 真帆 (16)  
Maho Anno  
興南高校 2年

### 「UJSに参加して見つけた自分」

学習プログラムも6項目から成り立っていましたが、私は初めて知る「移民学習」に興味を持ちました。何故なら、歴史や平和等は、この沖縄に住んでいたら知りえることです。でも、「移民学習」は海外移住者と関わらないと知りえないと思いました。

以前、BEGINさんの歌の日コンサートに行った時、「ぶたの恩返し」という言葉を聞いたことがあります。その時はあまり気にもなりません。でも、今回参加して改めて日本でも有数の移民県であることを知りました。戦前は開拓移民として生活の基盤が築きつつあった頃に起こった不幸な戦争、異国の地で大変だったと思います。でも、戦争ですべてを失った沖縄を助けてくれたのが、移民の人々だったことを知るきっかけになりました。言葉や習慣の違う移民の地で苦勞し、でもそれを乗り越える精神的な支えとして、オキナワ社会を作り上げたのだと思いました。

次に、海外県人会から参加したメンバーとの言葉の壁でした。私は、英語が得意ではありません。参加するにあたって、一番の不安材料でした。でも、通訳してくれるサポーターがいたり、意外に日本語が話せたり、ジェスチャーとかで日程期間を乗り切ることができました。話したいという思いがあれば、なんとかなるもんだと正直思いましたが、言葉は大切です。参加する前は、すごく不安だった言葉の壁でしたが、参加後には大きな課題として残り、これからのグローバルを考えたらやはり必要なのだと改めて思いました。

今回、32名との新しい出会いがありました。狭い沖縄なので県内はともかく、遠い海外の16名との出会いは私にとって宝物です。同じ沖縄の血をひいてはいますが、育った環境の違いは大きいです。海外参加者は自己アピールが上手で、同世代として学ぶことが多かった。この先続いていく友達との出会い、改めて知る沖縄の歴史、短い1週間でしたが、私にとっては大切な宝物を得た最高の夏となりました。この経験が今後の自分が少しでも成長できる糧となればよいなと思いました。



金城 香鈴 (16)  
Karin Kinjo  
真和志高校 2年

### 「UJSに参加して見つけた自分」

私は今回、ウチナージュニアスタディツアーに参加させていただき、たくさんの人と出会い、学びました。事前研修では、沖縄に住んでいながらもあまりわかっていない事柄を知ることができました。そして、その後に臨んだ1週間の研修では、色々な体験をさせてもらいました。

はじめは、私と同世代の人たち、海外からの参加者との交流がうまくいくだろうか、とても不安でした。しかし、研修が始まり、初日に緊張はしたものの、翌日からは少しずつ不安が薄れ、宿泊を共にすることで、日に日に仲を深めることができました。集団での生活の中で、私はルールを守ること、時間のけじめ、自主的行動など大事なことを改めて実感しました。特に、さまざまな文化、習慣、価値観をもった人々との交流生活は、自分から話しかけて、自分から行動するという大切な視点を学びました。また、自分に与えられた仕事や課題は、責任をもって行うということも再認識しました。その他にも、色々な方による協力、参加者同士の絆、互いへの思いやり、挑戦する意欲など、普段はなかなか意識することのなかったことに気づかされました。

ウチナージュニアスタディツアーの「交流」は、とても意味のあることだと思います。私は「交流」する中で、自分が少しでも成長できたと感じています。この貴重な1週間を大事な仲間たちと過ごすことができ、様々な体験ができたことをうれしく思います。このプログラムを通して、人と人との交流を大切にし、努力し、人のために行動できる人間になりたいと強く思いました。そのためには、自分に厳しく、人に優しく、粘り強く何事にも本気で取り組む姿勢が大切だと思います。これが私の行動宣言です。

今回のプログラムで、私を支えてくれた全ての方々に感謝します。本当にありがとうございました。



金城 早紀(17)  
Saki Kinjo  
豊見城南高校 3年



平良 恵理奈(17)  
Erina Taira  
久米島高校 3年

### 「未来に向けて学んだこと」

私はこの夏、“うちなーんちゅとして沖縄のために自分に何が出来るのか”を深く考え、視野を広げるためにこのプログラムへ参加し、素敵な仲間と学びに出会いました。

異なる言語に戸惑い、上手く思いが伝えられない悔しさを味わい、改めて言語習得への関心が湧きました。その中で、海外参加者から私は“素直さ”を学びました。彼らは、私達に英語でゆっくり話しかけたり、母語と文法が異なる日本語を学ぼうとしたりしていました。また、沖縄について学ぶ時には真剣な眼差しで話を聞いていて、素直に自分の思いを語る事ができる彼らの姿にとっても感銘を受けました。県内参加者とは、自分の意見を理解してもらおうと思うあまり、ぶつかってしまうこともありましたが、そうした中で、相手を尊重する大切さにも改めて気づきました。

プログラムを通して、沖縄にはとても大きな力を持った美しい言葉があることに気づきました。「命どう宝」「いちゃりばちよーでー」「意地ぬ出じらあ、手引き。手ぬ出じらあ、意地引き。」など、心と心を結ぶ言葉は、きっと沖縄だけではなく世界共通で伝わるのだと思います。そのようなゆいまーる精神を発信していけたら、世界平和を作る第一歩になれるかもしれないと感じました。

そしてこの学習は、私にとって沖縄と世界を繋ぐ一歩であり、自己の成長の場でもありました。海外の仲間との交流を通して、これまで沖縄にいただけでは気づけなかった新たな沖縄の見方に気づくことができました。また、彼らとうちなーんちゅとしての誇りを持ち続けながら、世界中に沖縄の魅力を伝えていきたいです。そのために、高校でまず英検二級取得を確実にします。英語を完璧にし、自らの言葉でうちなーを表現していきたいです。戦争を生き延び、苦難な戦後も乗り越え、必死に沖縄を支えてくれた私たちの祖父母のためにも、うちなーんちゅとしての伝統文化、精神を継承していきます。

### 「UJSに参加して見つけた自分」

ウチナージュニアスタディーでは参加者同士での交流を通してさまざまな考え方やその国について知ることが出来ました。また、ワークショップなどを通してウチナーンチュとしてのアイデンティティを考えたり、今まで自分が知らなかった沖縄の歴史や移民のことについて学んだりすることが出来ました。

アイデンティティについて海外参加者と話した時は自分が思っている以上に自分がウチナーンチュであるという気持ちが強くて驚きました。そして現地の人と顔つきが違ふことで困ったり悩んだりすることがあるのを知り、もっと若い世代の海外県系人の思いや考えなどを知りたいと感じました。ウチナージュニアスタディーに参加してから、自分が将来どういうことをしたいのかということが明確に定まって来ました。

そして、「若者がもっとウチナーンチュとしてのアイデンティティを考えるような機会を作れる人になりたい。」という行動宣言を実現するためにもまずは自分が沖縄のアイデンティティについて考えるために大学に進学して、沖縄の歴史などについて学ぼうと考えています。大学では沖縄の歴史を学びながら語学も学んで交流会に参加したり海外へ短期留学などをして海外の友達を作って人脈を広げてたくさんの考え方などを知っていきたいです。

将来はウチナージュニアスタディーのような交流事業に関わって多くの若者がウチナーンチュとしてのアイデンティティや、海外県系人、外から見た沖縄について考えていく場をつくれる人になりたいです。



芳沢 雅 (16)  
Miyabi Yoshizawa  
八重山高校 2年

### 「UJSに参加して」

最初は、UJSの一週間は長いと思っていましたが、体験してみるとあっという間に過ぎていました。一日、一日の内容がとても濃く、海外参加者との交流がたくさんできて、忙しさよりも楽しさが勝るほどでした。

印象深い内容は、アルトゥーロさんの移民の話です。私の祖母も台湾から移民してきたので、アルトゥーロさんの話との共通点がたくさんありました。先住民民族、もしくは後から来たその国の人から受ける差別、異郷の地での苦勞など。家のおばあちゃんは、子どもの頃石垣に移住してきました。小学校低学年中退で、幼いころから働き続け、大人になって結婚しました。その後、私の祖父が普通の人なら一生かけても返せないほどの借金を残して他界し、その借金を返すためや、八人の子供を養うため昼夜死に物狂いで働き、台湾と日本の貿易を始め、子どもを大学まで入らせました。どれだけ苦勞し、苦勞したのでしょうか。今の私がある状況になったら、絶対に返しきれないでしょう。だから私は、祖母の生き様を人生の目標とし、今の自分より成長し、いつか祖母に少しでも近づきたいと思っています。

私がこれから成長するために今できることは、何にでもとにかく挑戦、目の前のことを後回しにせずすぐやる、しっかり考えた上で行動するなどです。現在は続けられていますが、これからも続けないと意味がないので続けていくよう頑張りたいと思います。あと、祖母のことで涙を流したアルトゥーロさんのように、気持ちのある人になりたいです。

UJSで一番楽しかったことは、ダイナミック琉球のダンスです。国境の壁を越え身振り手ぶりでも交流ができ、たくさんの人と交流することができたからです。笑顔と伝えようとする気持ちがあれば、言語関係なく仲良くなれると思いました。書き切れないほど得たものがありました。これを糧としてさらに成長していきます。



仲濱 美海 (16)  
Miumi Nakahama  
東京都立大山高校 2年

### 「大好きなUJS」

私は、沖縄が大好き、もっと沖縄について学びたいという思いで参加しました。

沖縄に到着した日、私は不安と期待の気持ちで一杯でした。この日、私は緊張もなかなか寝る事が出来なかったのを覚えています。

いよいよ待ちに待った初日、知っている人が誰もいなくてどうしたら良いのか分からなかったのですが、皆が東京から来てくれたんだよね、ありがとう、待ってたよ、会いたかった、会えて嬉しいよ、等々本当に温かく迎えて下さり、ゆっくりなじんでいった事を覚えています。

毎日本当に沢山のプログラムがつまみで、疲れた時もありましたが、全ての物が私にとって初めて体験する事でした。その為、どのプログラムに対しても真剣に、楽しく取り組むことが出来たと思います。

皆との交流は、班行動や、毎日の食事の時間、寝るまでの時間等々、本当に短い期間ではありましたが、皆で助け合いながら解決したり出来たので良かったと思います。

私が一番印象に残ったプログラムは、平和学習です。平和という事、今幸せだと言える有り難さを感じることが出来ました。海外からの参加者など、皆、生まれ育ちも違うけど、一人一人が自分らしく、幸せに生活出来ることを願っている事が分かりました。

UJSに参加するにあたっての目標を初日にたてていました。それは、沢山の友達を作り、世界と交流し、沖縄の文化を学び、東京に持ち帰って、同級生等に話をし、沖縄に興味を持ってもらえるようにする、です。今考えたら、達成出来たと私は思います。問題は、今後、どのくらいにして学んできた事を活かすかです。そのために行動宣言を書きました。それは、東京の若者達にもっと深く沖縄を知ってもらおうという事です。行動宣言を実行出来たのが。それは、まだ分かりません。途中だからです。努力はしています。UJSに参加する前より積極的に友達と沖縄の話をするようになりました。また、UJSの報告会を東京で開いたりもしました。いつかは、いや、20歳までは実行出来るくらいにこれからも努力し続けたいと思います。

UJSで出会った友達とは、今も連絡を取り合っています。さうやって繋がりが続けられる事を嬉しく思います。これから友達を大切に、いつか、必ず再会したいと思います。



宮里 翔和 (19)  
Towa Miyazato  
城西国際大学4年  
(青年リーダー)

### 「青年リーダーとしてUJSに参加して」

今回、青年リーダーとしてUJS2015に参加させてもらいました。僕自身、ジュニアスタディツアーに参加者として参加するのは二回目です。最初のジュニアスタディには、2012年に参加して、3年ぶりの参加となりました。今回のジュニアスタディは、1回目に参加した立場とは違って、青年リーダーという、参加者のみんなをまとめる立場でした。青年リーダーを希望した理由としては、僕には夢があって、その夢を達成する為の1つとして、リーダーシップ力が必要です。それを高めたくて、今回のジュニアスタディに応募しました。

ジュニアスタディには、様々な国々&性格の人たちが集まります。このような素晴らしい事業があるのは、沖縄だけです。このようなチャンブルー環境の中でリーダーを務めるということは、不安ではあったのですが、自分の魅力でもある、“人を楽しませる力”という力を信じて参加しました。今回の、僕自身のジュニアスタディでの目標は、「参加者一人一人が固定観念に捕われず、自分自身の考えを持って、それをみんなと共有できるような絆を築き上げること。」でした。結論から言うと、僕の目標は達成できました。それは、僕がみんなに僕の目標を達成させるために指示をしたのではなく、参加者全員が個人の意志で僕の望んでいた絆を築き上げました。もちろん、それは国内、国外問いません。参加者全員が、意識が高く、いい子ばかりだったので、僕たちリーダーは、あまり苦労はしませんでした。というのは、様々なワークショップを毎日やっていたなかで、みんなの考えていること、思っていることなど、引き出すことができました。それは、僕が思っている以上に、沖縄のことや、将来のことをよく考えていました。最終日には、グループ別で、ジュニアスタディを通しての感想を発表し合いました。その瞬間、僕が1番に思ったことは、彼らの力を信じてよかったな。本当に彼らのリーダーを務めることが出来て嬉しいな。とそう思いました。そんな参加者全員のこれからの活躍が楽しみで、両親のような気持ちです。それらのことから、おかげで僕の目標は、達成することができました。この1週間は、僕にとって、とても良い経験になりました。

高校2年生に参加した時とは違って、少しだけ大人になった自分の目線から、物事を考えることが出来ました。今回学んだことは、絶対自分の目標を達成することに活かしたいです。今の自分なら何でも出来る気がします。今回、関わったすべての人に、この子をリーダーにしてよかったな。と思われるように、これからも目標に向かって切磋琢磨していきます。本当にありがとうございました。

## 4. 參考資料

## (1) アンケート結果 (コメント一部抜粋)

※未記入もあるため、総数が一致しない場合があります。

### 1-1. 事前学習 (7月4・18日) の評価とその理由をお聞かせください。(県内参加者のみ)

#### (1) 総合

非常に良い 11    良い 5    どちらともいえない 0    よくない 0

#### 【理由】

- ・ゲームなどで、皆とつながりができる、いいきっかけになりました。
- ・沖縄に住んでいるにも関わらず、自分の知らないことを学ぶことができ、とても良かったです。また担当の方々が色々な活動を通して、私たちを楽しませたり、考えさえてくれたりと積極的に参加しやすい雰囲気を作ってくれました。
- ・今まで学んだことが無かった沖縄から移民していった人々の子孫とこの事業に参加するんだという、自覚が持てました。

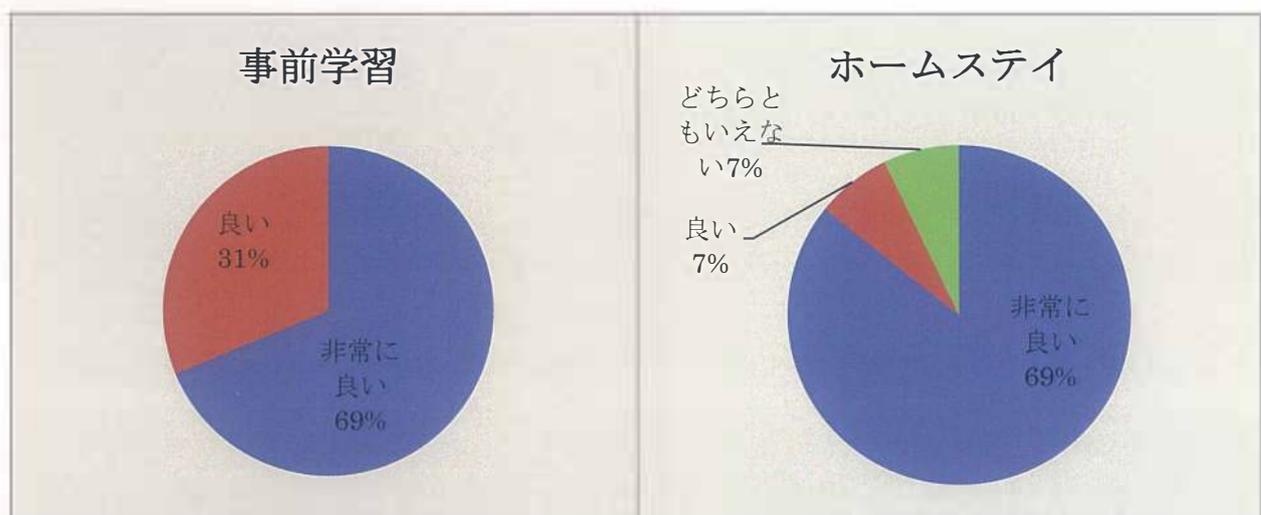
### 1-2. ホームステイの評価とその理由をお聞かせください。(海外参加者のみ)

#### (1) 総合

非常に良い 12    良い 1    どちらともいえない 1    よくない 0

#### 【理由】

- ・親戚やボリビアで出会った人と出会えたことが、一番嬉しかったです。時間が短く、もっとゆっくり皆さんと話がしたかったです。
- ・家族や親せきが色々な場所に連れて行ってくれました。また、沖縄の人たちの生活のリズムを知ることができ、とても良かったです。
- ・家族にとっても歓迎され、楽しく過ごすことができました。美味しい沖縄料理を準備してくれたり、観光地へも連れて行ってくれました。



## 2. 学習プログラム（8月2～8日）の評価とその理由をお聞かせください。

### (1) 一日のスケジュールについて

【国内参加者】 □妥当 14 □詰込み過ぎ 2 □もの足りない 1

【海外参加者】 □妥当 15 □詰込み過ぎ 0 □もの足りない 0

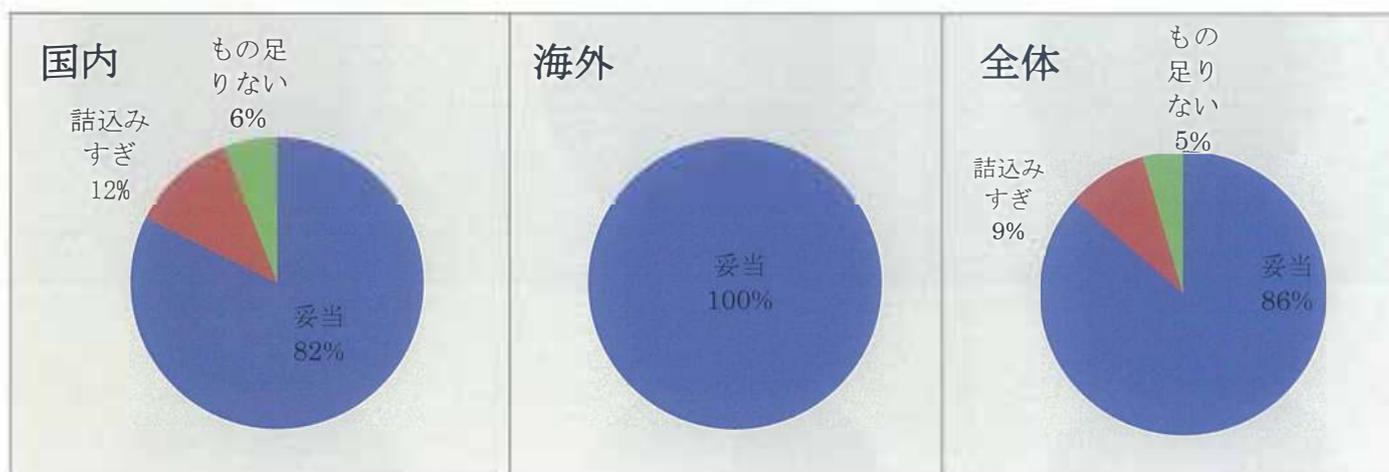
(理由)

#### 【国内参加者】

- ・毎日とっても忙しかったけれど、一つ一つのプログラムをみんなで終えられた感じがしたから。自分にとってプラスになることが多くあったから。
- ・沖縄の歴史について、十分学べた。また、みなで楽しめるレクリエーションなどもあり、とても充実していました。
- ・最終日のスケジュールは全体的に詰め込み過ぎだと思いました。ポンチョの時間も、もう少し多めに取った方が良いかと思います。
- ・もっとゆっくり事業に取り組みたかったし、時間がオーバーしても大丈夫なようにしてほしいです。

#### 【海外参加者】

- ・沖縄についてたくさんのことを学ぶことができたし、ワークショップではこれまでになかった自己発見にとっても役立ちました。スケジュールは、学び、遊び、フリータイムとありバランスが良かったです。
- ・本当に素晴らしかったです！私の人生で一番の経験となりました。沖縄の歴史について多くを学び、たくさんの友達を作ることができました。
- ・プログラムがとても短く感じたので、もっと長くしてほしいです。



## (2) 宿泊先について

【国内参加者】 □非常に良い 8 □良い 7 □どちらともいえない 2 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 5 □良い 8 □どちらともいえない 2 □よくない 0

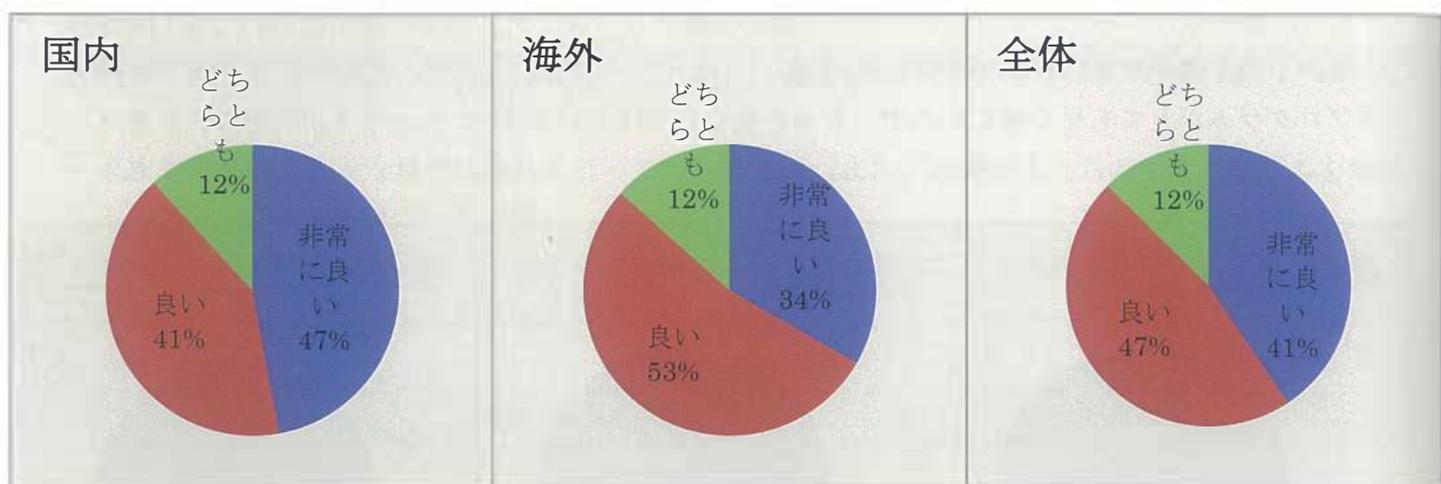
(理由)

### 【国内参加者】

- ・ 宿泊先では、部屋の大きさにあった人数割りもあったし、同じ部屋になった海外参加者の人たちとチューターさんがいない分英語で喋ることができました。また施設内には BBQ 場や体育館もあって、仲間とプログラム以外にたくさんの思い出を作ることができました。
- ・ 自然が豊かで、とても居心地が良かったです。

### 【海外参加者】

- ・ 布団や畳の上で寝るのは日本の生活を体験できるものとして良かったですし、ルームメイトとも仲良くなりました。
- ・ 働いている人が親切でした。いつも挨拶してくれ、とてもあたたかい気持ちにさせてくれました。
- ・ 広くてきれいでしたが、エアコンがもう少し早い時間から使えたら良かったです。



(3) 食事について

①糸満青少年の家

【国内参加者】

\*量 □妥当 13 □多い 1 □ものたりない 3 \*味 □美味しい 7 □普通 5 □美味しくない 3

【海外参加者】

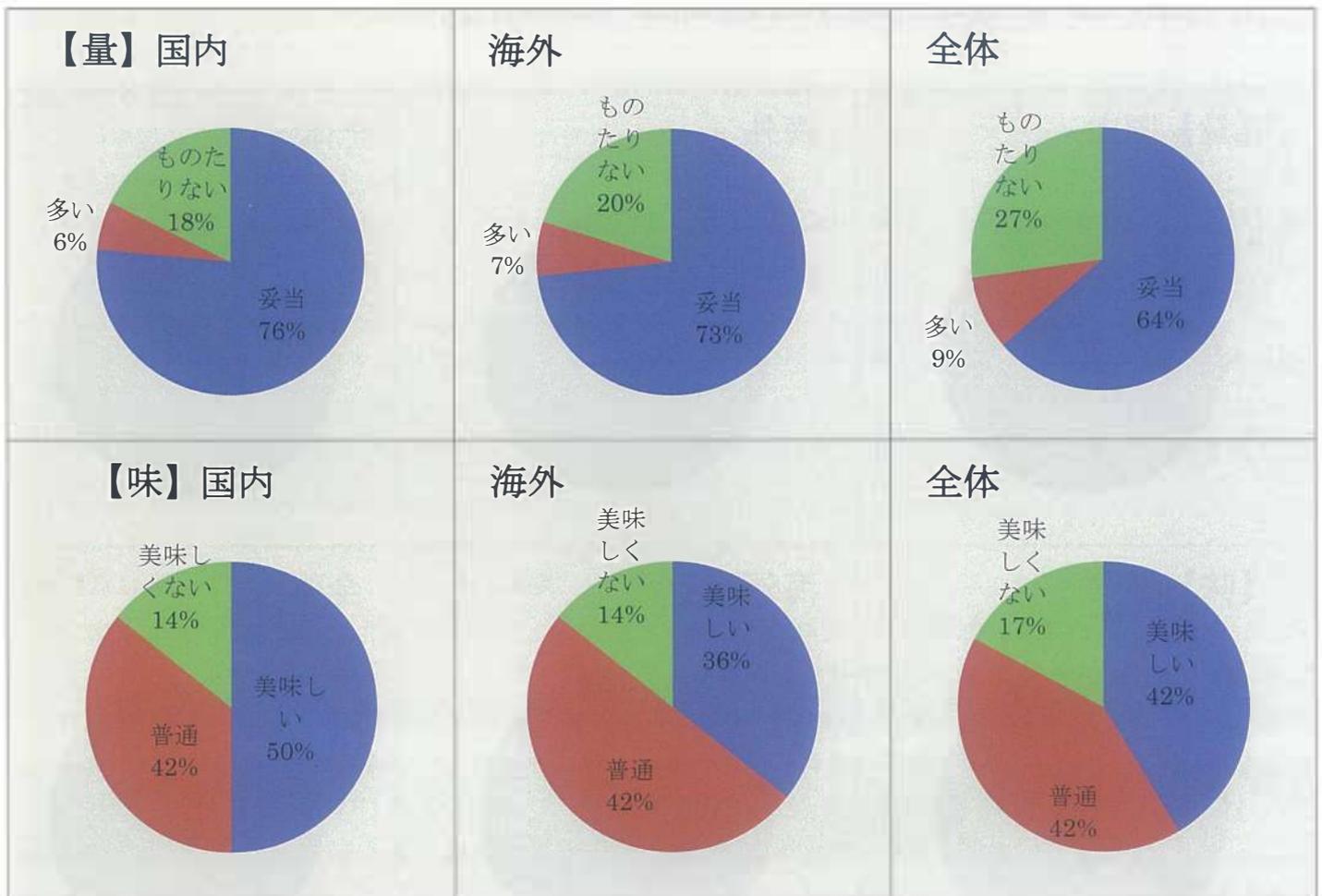
\*量 □妥当 11 □多い 1 □ものたりない 3 \*味 □美味しい 5 □普通 7 □美味しくない 2  
(理由)

【国内参加者】

- ・食事を入れるのがセルフサービスだったのはとても良かったです。食事の量は人それぞれ違うので毎回残さず食べることができました。
- ・美味しかったけど、もう少し量が欲しかったです。
- ・少し揚げ物が多いと感じました。

【海外参加者】

- ・十分な量もあり、美味しかったが、たまに味が好みでないときがありました。
- ・いつも家ではもっとたくさんの量を食べているので、少なく感じました。



②施設外レストラン及び弁当

【国内参加者】

・量 □妥当 10 □多い 2 □ものたりない 3 ・味 □美味しい 8 □普通 4 □美味しくない 0

【海外参加者】

・量 □妥当 12 □多い 1 □ものたりない 2 ・味 □美味しい 10 □普通 3 □美味しくない 1

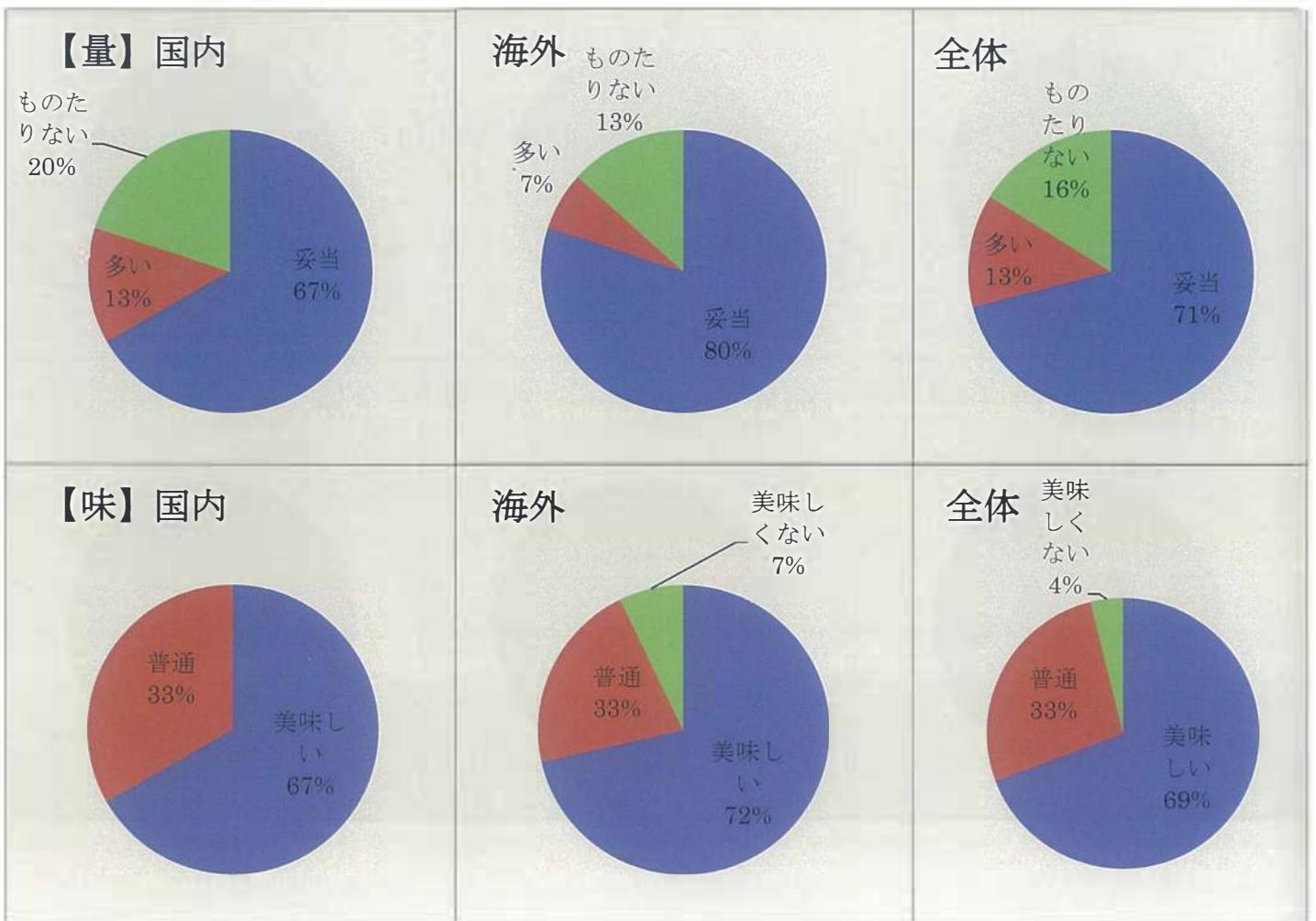
(理由)

【国内参加者】

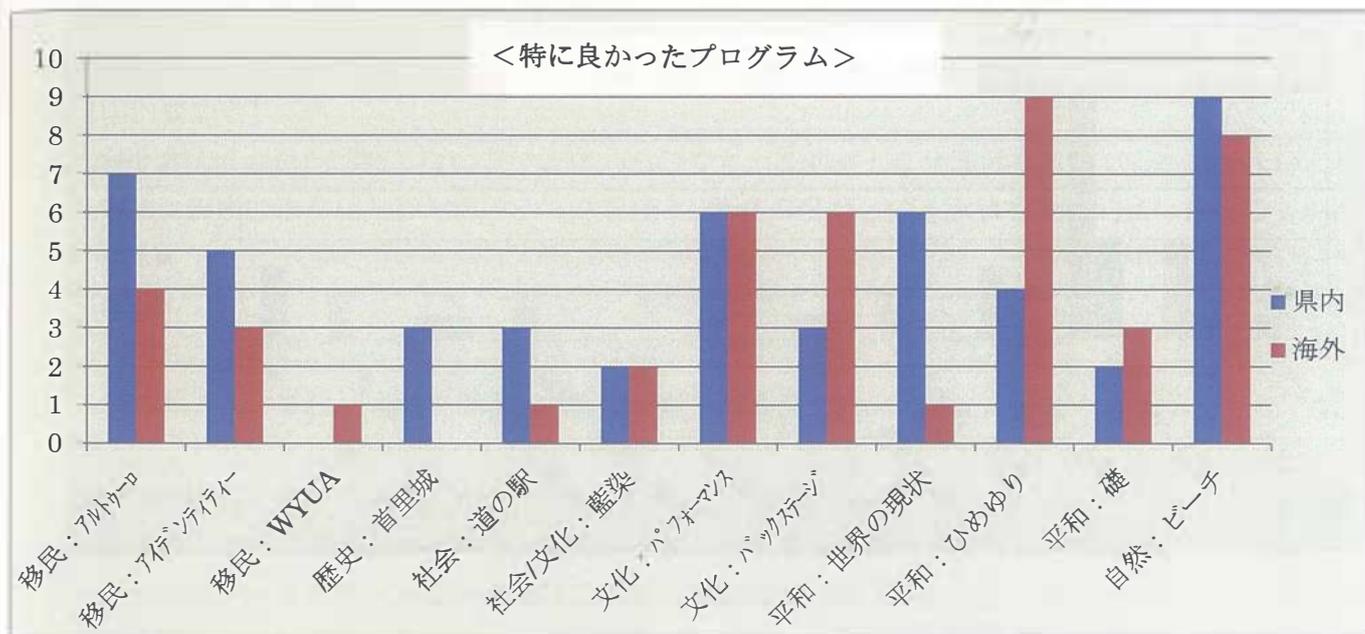
- ・いろいろな場所で外食したり、弁当を食べたりして楽しかったし、美味しくて豪華でした。
- ・量が多く感じたが、毎日のプログラムを乗り越えていくために、エネルギーをたくさん取ることができました。また、沖縄料理も多くて海外参加者もワクワクしながら食べているように見えました。
- ・パーティーのときに食べるものがなく、出演する人の分は別にとっておくか、別で夕食を取りたかったです。

【海外参加者】

- ・お弁当がとても好きでした。美味しかったです。
- ・外での食事はいつも何を食べるのか楽しみにしていました。
- ・とてもおいしかったけれど、お弁当のご飯が冷たかったのが残念でした。



(4)各学習プログラムの中で特に良かったものを3つまで選び、その理由をお聞かせください。



(プログラムで特に良かった点)

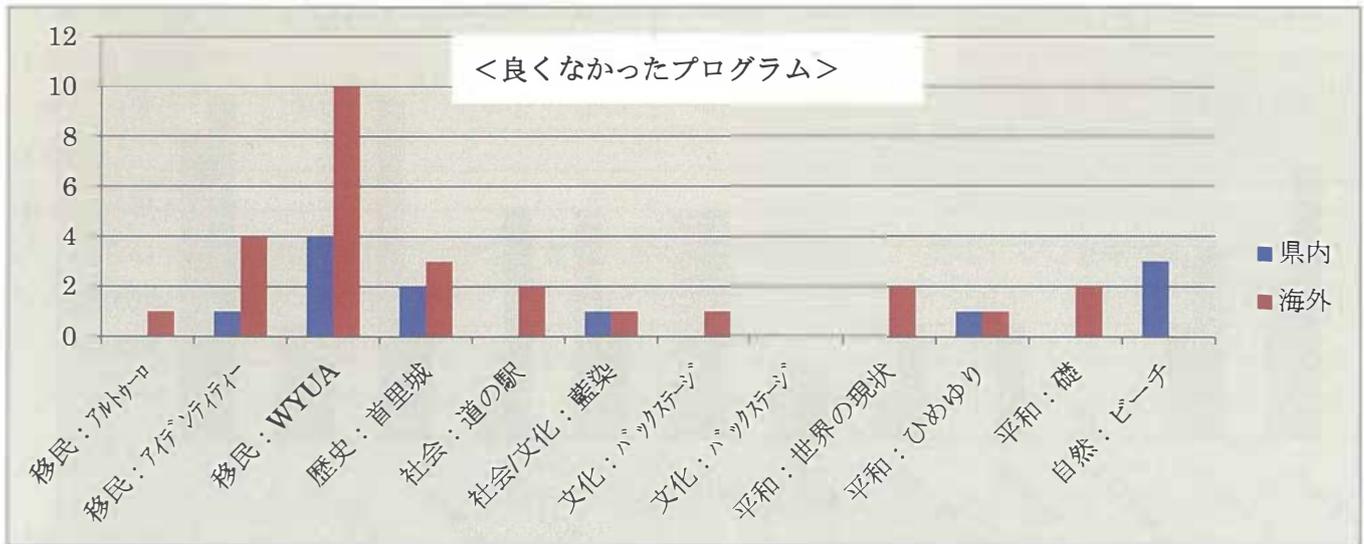
【国内参加者】

- ・平和学習のワークショップでは、お互いの意見や、考えを話し合うことで、いろいろな考え方が生まれ、自分の考えを深めることができました。
- ・世界の現状についての講義は、日本国民の食べ残しの方が、世界が外国に寄付している食べ物よりも多いというとても驚くべき事実があったので、とても印象に残りました。少しでも改善するには、私でも出来ることはあるのかなと深く考えさせられました。
- ・『ダイナミック琉球』のダンスでは、皆で汗を流したり、教え合ったりすることがあったから、絆が深まったし、楽しかったです。
- ・ボランティアの皆さんと交流ができたキャンプファイヤーは、たくさんの人に支えられてこの事業ができていたんだなと感じました。

【海外参加者】

- ・ひめゆり資料館で見たビデオがとても印象に残っています。私だったら逃げ出さずにあんなに辛い、苦しいことができたかを考え、今こうやって勉強できていることが幸せなんだと感じました。
- ・ひめゆり資料館での平和学習は本当に心打たれた。沖縄の人々がこんなにも苦しんでいたこと、戦争の歴史を日系人はもっと知らないといけない。苦労の中で生きてきた沖縄の人たちを誇りに思います。
- ・自由にビーチで遊べたのは私たちの関係をより近づけました。こうした交流プログラムは、ウチナーネットワークを作っていく上で、私たちの絆を強くするために大切だと思います。
- ・阿麻和利バックステージツアーでは、中高生の演技を見たとき、鳥肌が立つくらいすごい迫力があり、とても感動しました。皆さんと一緒にダイナミック琉球を踊って、とても楽しくて、県人会のみんなにも教えたいなと思いました。

(5) 各学習プログラムの中で良くなかったものを3つまで選び、その理由をお聞かせください。



(プログラムで改善してほしい点)

【国内参加者】

- ・平和の礎の見学では、私の親せきや知り合いの名前を探すのにあまり時間がなかったもので、そこが気になりました。
- ・ずっと座って聞くプログラムは少し眠くなってしまいました。もう少しグループ学習を増やしたほうが良いと感じました。
- ・首里城は、班の中でも別々になってしまったりしていたので、皆で回りたいかったです。

【海外参加者】

- ・WYUAの話は面白かったけど、話が長く、集中が途切れてしまいました。
- ・キャンプファイヤーにはもっと時間をかけて欲しかったです。

(6) 班行動はプログラムを行う上で有効でしたか？

【国内参加者】 □非常に良い 14 □良い 3 □どちらともいえない 0 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 12 □良い 3 □どちらともいえない 0 □よくない 0

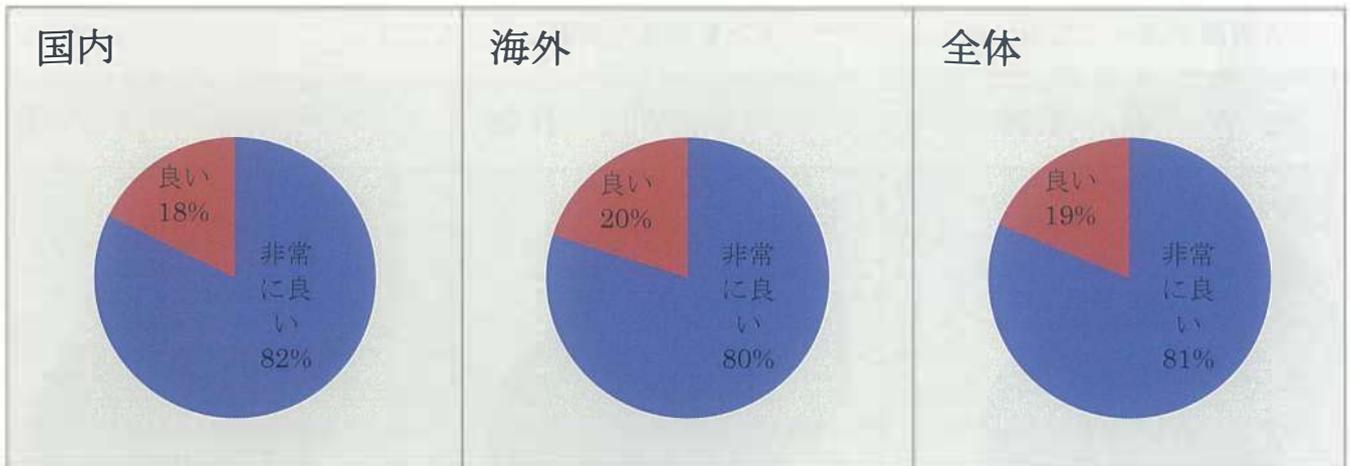
(理由)

【国内参加者】

- ・班行動は班全員が団結しないとできないものです。言葉が100%伝わらなくても、一人ひとりが積極的に課題に取り組み絆を深めることができ、最高の班だという意識を最終的には持つことが出来ました。
- ・日本人だけで固まるという事もなくなり、積極的に話そうと思えて交流がしやすかったです。それに、一緒にいる時間が長くなり、いろいろな話がありました。
- ・海外参加者とも意見交換ができ、より視野が広まりました。

【海外参加者】

- ・班行動は様々な活動をする中で、お互いを知り合うきっかけを作ってくれました。
- ・グループワークはチームワークを作るのにとても良かったです。
- ・班行動はとても良かったです。もっと全員と知り合うために、一度はグループを変えてもいいと思いました。



(7) 国内（海外）参加者との交流は期待していた通りできましたか？

【国内参加者】 □期待以上 14 □期待通り 4 □あまりできていない 1 □できなかった 0

【海外参加者】 □期待以上 9 □期待通り 4 □あまりできていない 2 □できなかった 0

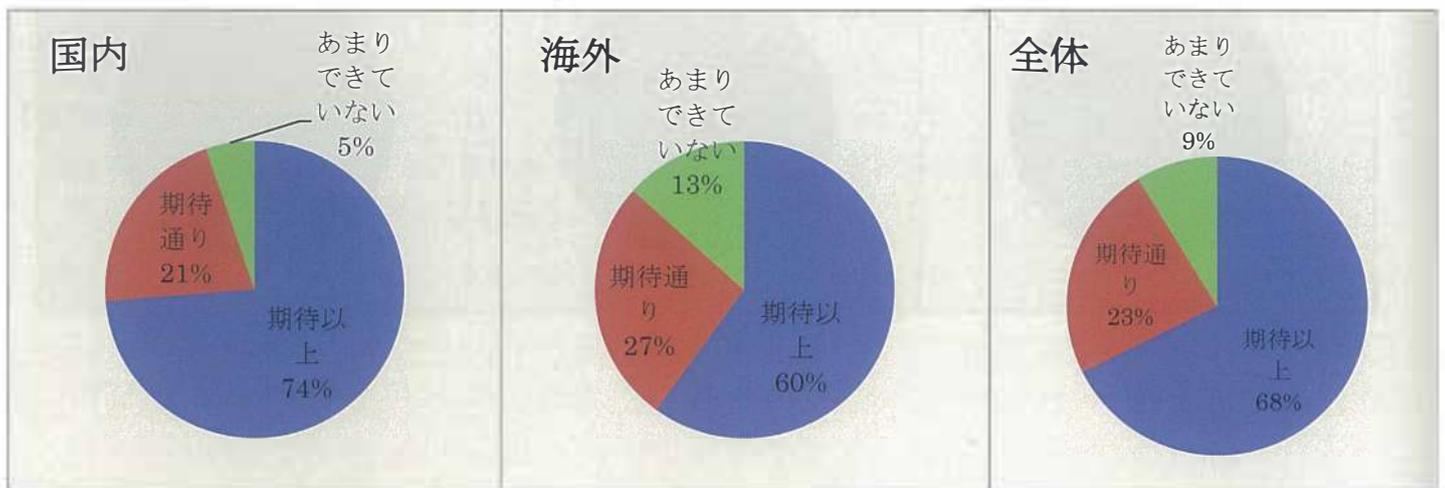
(理由)

【国内参加者】

- ・外国語を教えてもらったり、日本語を教えたりして思っていた以上に喋ることができました。また歌やダンスなどを通して、言葉があまり通じなくても一緒に楽しむことができたのでよかったです。
- ・最初は友達になれるかなと思って参加しましたが、最後はみんな家族のように仲良くなれたので良かったです。
- ・できました。最終的にほとんどの人がメッセージアプリや Facebook も作り、今でも連絡取り合っています。
- ・人見知りをしていただけ、後半はたくさん交流できて楽しかったです。

【海外参加者】

- ・最初は難しかったけれど、時間が経つにつれて、みんな理解し合えるようになっていきました。
- ・すべてのメンバーと話し、コミュニケーションを取ることができました。たくさんの友達を作ることができ、これからもコンタクトを取り続けたいです。
- ・言葉では理解できないことはあったけれど、最終的には言葉はそう重要ではないと思いました。忘れられない、忘れることのない時間を一緒に作ることができました。
- ・言語が違ったため、コミュニケーションを取るのが難しかったです。



### 3. 報告会（最終日）の評価とその理由をお聞かせください。

#### (1) 総合評価

【国内参加者】 □非常に良い 14 □良い 4 □どちらともいえない 1 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 12 □良い 2 □どちらともいえない 1 □よくない 0

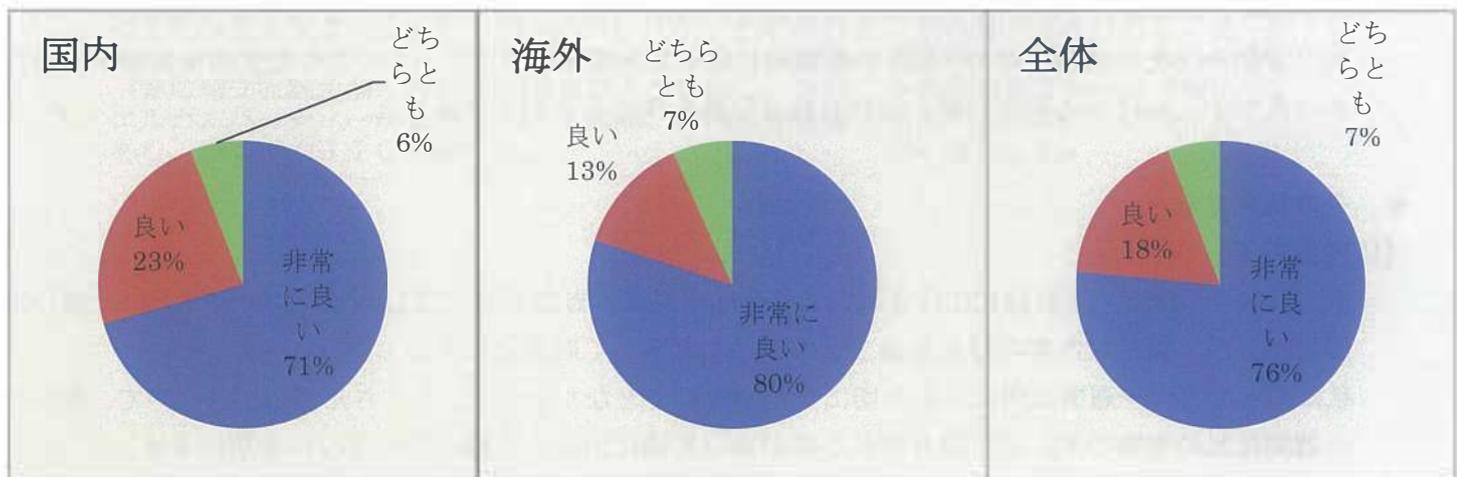
(理由)

#### 【国内参加者】

- ・今までやってきたプログラムを振り返りながら自分の将来やりたいことが明確になったことと、初日と比べて自分がどれだけ学ぶことができたのかということを知ることができました。また、参加者メンバーの将来の目標も聞いたのでよかったです。
- ・「行動宣言」や、グループで話し合っただけ決めたことをもとにプレゼンすることができ、とても楽しかったし、言葉が通じなくてもできたことがたくさんあり、刺激的だったからです。
- ・パーティーのときに、準備などでみんなの余興を全部見れなかったのが残念かったです。

#### 【海外参加者】

- ・UJSでの経験がどれほど素晴らしかったかを見せることができ、みんな自分たちの発表に誇りを持ってできたと思います。
- ・最終発表は素晴らしかったと思います。全員が学んだことを表す機会を持って、また、参加者の間で生まれた絆を見せることができました。
- ・このプログラムで何が良かったか、グループでお互いの意見を共有することができました。



### 4. 同事業について今後どのような内容を希望しますか。

#### 【国内参加者】

- ・スポーツ大会をするのはどうでしょうか。言語の壁を越えて楽しめるのは運動系だと思います。
- ・沖縄の昔の暮らしなどを体験するプログラム。
- ・もっと体や頭を動かせるようなものを増やしていくといいと思います。例えば、方言をならったりして方言を使ってしりとりなどのゲームをしたり、昔の沖縄の遊びなどを楽しめると思います。
- ・もっとボランティアとの交流を増やしてほしいです。

#### 【海外参加者】

- ・海外参加者が、自分の国の移民について紹介すること。
- ・キャンププログラム。
  - ・買い物から始め、沖縄の料理やお菓子を作りたい。

## 5. 今回の一連の研修で最も印象に残ったことをお書きください。

### 【国内参加者】

- ・住む国、普段使っている言語が違っていても皆一人ひとりがウチナーンチュであるという意識があること。私たちはアジア人である以前に日本人、ウチナーンチュであるということを体感しました。そして、更に誇りをもって生きていこうと思いました。
- ・国によって考え方も違うし、同じところもわかったから、国だけではなくて個人を見ようと思いました。
- ・ダイナミック琉球の練習は、みんな一生懸命で団結できました。とても良い経験になりました。
- ・沖縄の人々は、異国の地でも頑張っていたことを知り、その人たちがいたからこそ、私たちが出逢えたと感じ印象に残りました。
- ・アイデンティティーのワークショップで、私が思っていた以上に海外参加者が自分はウチナーンチュであるという意識が高かったことに驚きました。それと同時に、今まで自分が育ってきた国と同じくらい沖縄のことを思っていてくれることに嬉しさを感じました。そして、海外でも仏壇があったり、方言を習っていたりしていることを聞くことができました。また、沖縄県系人であることについて現地の人たちとは顔の系統が違って日本の観光客と間違えられたり、悩んでいたたりすることを知り、もっと年代が若い県系人の人たちの現状というのを知りたいと思いました。

### 【海外参加者】

- ・アイデンティティーワークショップはとても印象深いです。私の先祖の文化について、より理解を深めることができました。このワークショップ中、他の参加者と意見交換をし、ウチナーネットワークの意味についてより理解が深まったと思うし、より繋がりが深まったと思います。
- ・UJSは本当に素晴らしいプログラムでした。この仲間たちと一緒に過ごすことができ良かったです。同じ言語や文化ではない中で、お互いを理解し合うことを学びました。このような大切な友達が一番良かったです。かけがえのない絆、忘れられない絆を作ることができました。

## 6. その他意見など

### 【国内参加者】

- ・県外参加者（国内）もお迎えに行きたいし、事前研修にも参加させてほしいです。一週間という短い期間でしたが、濃密な内容の日々を過ごせて、とても楽しく刺激になりました。
- ・私にとってこの一週間は何よりも大切にしたい思い出となりました。たくさん笑って、泣いて、食べた一週間は私の宝物です。泣くほど別れるのが辛い友達に出会える機会はそうないと思います。

### 【海外参加者】

- ・UJSプログラムの一員になれてとても嬉しく思います。私の初めての沖縄はかけがえのないものになりました。最初は緊張していたけれど、みんなとてもフレンドリーでした。本当に素晴らしい時間を過ごせ、県人会へもっと関わりたいという気持ちになりました。
- ・このような忘れがたい機会を得られ、本当に感謝しています。世界中に友達を作ることができ、「ウチナーンチュ」である自分がより強くなりました。県人会の皆さん、沖縄のスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。
- ・UJSが今後も続けられ、たくさんのウチナーンチュが関わることを願っています。本当に今回の体験を楽しむことができました。また、人間的に成長できたと思います。もっと自分の■の歴史や文化について知りたいと思うようになりました。いつも沖縄のことを思っています。

(19) **ひと暮らし**

2015年(平成27年) 8月3日 月曜日

### 海外移住者子弟と 県内●若者が交流 ウチナーJrスタディー

海外移住者の子弟と県内の若者が交流しながら歴史や文化などを学ぶ「ウチナージュニアスタディー」(県広報交流課主催)のウエルカムパーティーが2日あり、浦添市のJICA沖



縄国際センターで開かれた。事業には13歳から19歳の若者33人が参加し、2日から1週間、県内各地を巡る。

県内参加者を代表し、金城香鈴(かりん)さん(16)＝真和志高2年＝は「悔いのない1週間にしよう」とあいさつした。

ウエルカムパーティーで、ジュニアスタディーする参加者たち(2日午後、浦添市前田のJICA沖縄国際センター)



## 県系の若者16人来沖

ジュニア  
スタディー 同世代らと交流へ

海外に住む県系人の子どもたちを招く本年度の「ウチナージュニアスタディー事業」(県主催)の歓迎式が3日、県庁の県民ホールであり、海外から来沖した16人と県内参加者15人、県外参加者1人が出席した。

ウチナージュニアスタディー事業で沖縄を訪れた海外の県系人子弟や県内参加者ら113日午前、県庁

米国ワシントン在の大学生、岸本ネスターさん(19)は「毎年沖縄を訪れている。空と海がきれいで、人も優しく、夜でも安全だ。沖縄での経験を県人の子どもたちと共有したい」と語った。一行は2日に来沖。1週間の日程で同世代との交流などを通して沖縄の文化や歴史、自然を学ぶ。

話 題

海外県系人 沖縄で交流  
歴史や文化を学習

海外県系人の子弟が沖縄の歴史や文化を学び、同世代の若者と絆を深めるウチナージュニアスタディー事業の歓迎セレモニーが3日、県庁の県民ホールで開かれた。海外8カ国から16人、県内16人、東京県人会から1人の計33人が参加。浦崎唯昭副知事は「積極的に学んで親交を深め、世界的視野を備えたウチナーンチュウになってほしい」と激励した。

八重山高2年の芳沢雅岩が「将来何をするか、今何ができ

るか意見交換し、沖縄に貢献したい」とあいさつ。海外参加者代表でボリビア出身の県系3世、ウツテフサ大学2年の熱田仁奈さんは「多くのウチナーンチュウと友達になり、ウチナーネットワークを広げたい」と意気込みを語った。熱田さんが沖縄に足を踏み入れたのは初めて。大学では三線の授業を専攻し、1世の祖父母からも沖縄から移住当時の話を聞いて育った。熱田さんは「沖縄の海は写真で見えていたが、実際に見るのとは比べものにならない」と語った。

参加者らは10日まで沖縄に滞在し、歴史・文化学習やワールドワークを体験し、交流を深める。



「ウチナージュニアスタディー」事業に参加するメンバーら。3日、県庁

# 会員や学生らが親睦 県人会ピクニック



歌を披露する沖縄から訪れた夏季ホームステイの中学生ら＝ワシントン州

## ② シアトル

【佐久間トーマス通信員】  
ワシントン州県人会はこのほど、恒例のピクニックをオー  
ボン市のゲームパークで開催  
した。

食事の前に今回高校を卒業  
したジョセフ・レドモンド君  
(2世、母姓佐子、中城村出身)  
に激励の言葉を贈呈した。レ  
ドモンド君は今夏の沖縄での  
ジュニアスタディツアーに  
参加し帰ってきたばかり。自

分自身のうちなーんちゅアイ  
デンティティーを実感したよ  
うで、「今後沖縄の大学に行  
きたい」と抱負を語った。

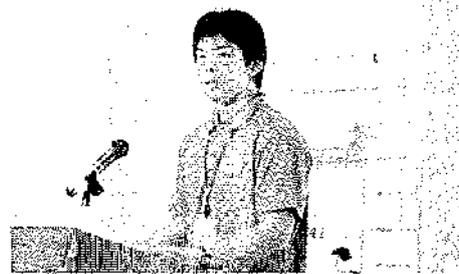
今回は沖縄から夏季ホーム  
ステイで来ている学生たち数  
人も参加。天気もよく、10  
0人余りの参加で和気あいあ  
い、楽しいピクニックであつ  
た。参加たちはそれぞれ自慢  
の料理を持ち寄り十分な食事  
に楽しんでいた。

食事の後は一人三脚リレ  
ー、ドーナツ食い競争、スイ  
カ割り、水風船投げ、そして

恒例の男女に分かれた綱引き  
で幕を閉じた。綱引きは例年  
女性陣が勝利しており、今年  
こそは男子陣が奮起した  
が、やはり勝てなかった。



平成27年度ウチナー・ジュニアスタディー事業参加者  
歓迎セレモニー



県内参加者代表あいさつ（八重山高校の芳沢雅さん）

海外移住者子弟の  
ふるさと沖縄への理  
解と絆を深めるとと  
もに、世界のウチナー  
ネットワークを担う  
子どもたちを育成す  
る「ウチナー・ジュニア  
スタディー事業」の  
参加者歓迎セレモ  
ニーが県庁で行われ  
た。

今年度は、来年10  
月に開催される「第  
6 ■世界のウチナーンチュ大会」のプレイヤー事業  
として海外・県内外から33名が参加し、8月2日～  
8月8日の日程で、沖縄の歴史や文化、自然等を学  
ぶプログラムを体験した。



参加者全員で記念撮影

# ウチナージュニアスタディー事業 受入実績

(1) これまでの海外参加者・引率者・青年リーダー内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○国別内訳

( ) 内は、平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数

| 年度        | H13           | H14       | H15       | H16       | H17       | H18           | H19       | H20       | H21       | H22       | H23       | H24       | H25       | H26       | H27       | 計           |
|-----------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| ポルビア      | ★<br>4<br>(1) | 2         | 2<br>(1)  | 2         | 2         | ★<br>4<br>(1) | 2<br>(1)  | 1         | 1         | 1<br>(1)  | ★<br>3    | 1         | 2         | 3         | 2         | 32<br>(5)   |
| ブラジル      | 8<br>(2)      | 3<br>(1)  | 3<br>(1)  | 3<br>(1)  | 3<br>(1)  | 6<br>(1)      | 3<br>(1)  | 3<br>(1)  | 3<br>(1)  | 3<br>(1)  | 2<br>(1)  | 3         | 3         | 2         | 3         | 51<br>(12)  |
| うちカンボグランド | 2<br>(1)      | 1         | 1<br>(1)  | 1         | 1         | 2             | 1         | 1         | 1         | 1         |           | 1         | 1<br>(1)  | 1         | 1         | 16<br>(3)   |
| アルゼンチン    | 4<br>(1)      | 2<br>(1)  | 2         | 2<br>(1)  | 2<br>(1)  | 3             | 2         | 2<br>(1)  | 2         | 2         | 3<br>(1)  | 1         | 3         | 2         | 2         | 34<br>(6)   |
| ペルー       | 4<br>(1)      | 2<br>(1)  | 2<br>(1)  | 2<br>(1)  | 2<br>(1)  | 3<br>(1)      | 2<br>(1)  | 1         | 2<br>(1)  | 2         | 3         | 1         | 2         | 1<br>(1)  | 2         | 31<br>(9)   |
| ベネズエラ     | 1<br>(1)      |           |           |           |           |               |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1<br>(1)    |
| メキシコ      | 2<br>(1)      |           |           |           |           | 1             |           |           | 1         | 1         | 1         | 1         | 1         | 1         | 1         | 10<br>(1)   |
| キューバ      |               | 1<br>(1)  | 1<br>(1)  | 1<br>(1)  |           | 1<br>(1)      |           | 1<br>(1)  | 1<br>(1)  | 1<br>(1)  |           |           |           |           |           | 7<br>(7)    |
| フランス      | 1<br>(1)      |           |           |           |           |               |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1<br>(1)    |
| イギリス      | 1<br>(1)      |           |           |           | 1<br>(1)  | 2             |           |           |           |           | 1         |           |           |           |           | 5<br>(2)    |
| ドイツ       | 1<br>(1)      |           |           |           |           |               | 1         |           |           | 1<br>(1)  |           | 1         |           | 1         |           | 5<br>(2)    |
| アメリカ      | 17<br>(4)     | 6<br>(2)  | 6<br>(4)  | 5<br>(1)  | 5<br>(1)  | 10<br>(2)     | 5<br>(1)  | 4<br>(1)  | 6<br>(1)  | 7<br>(1)  | 7<br>(1)  | 5<br>(1)  | 2         | 2         | 3<br>(1)  | 90<br>(21)  |
| うちハワイ     |               | 2         | 2<br>(1)  | 1         |           | 1             |           | 1         | 1         |           |           | 1         |           |           |           | 9<br>(1)    |
| うちグアム     | 1             |           | 1<br>(1)  |           |           |               |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 2<br>(1)    |
| カナダ       | 4<br>(2)      | 1<br>(1)  | 1         | 1         | 1         | 2             | 1         | 1         | 1         | 2         | 1         | 1         | 1         | 1         |           | 19<br>(3)   |
| フィリピン     | 3<br>(1)      | 2<br>(1)  | 2<br>(1)  | 1         | 1         | 1             | 1         |           |           |           |           |           |           |           |           | 11<br>(3)   |
| シンガポール    |               | 1<br>(1)  |           |           |           |               |           |           |           |           |           |           |           |           |           | 1<br>(1)    |
| マレーシア     |               |           |           |           |           | 1             |           | 1         |           |           | 1         |           |           | 1         | 1         | 5           |
| 韓国        |               | 1<br>(1)  |           |           |           |               |           |           |           |           |           |           |           | 1         | 1         | 3<br>(1)    |
| ニューカレドニア  |               |           |           |           |           |               |           | 1         | 1         | 1         | 1         |           | 1         |           |           | 5           |
| 計         | 50<br>(17)    | 20<br>(9) | 19<br>(9) | 17<br>(5) | 17<br>(5) | 34<br>(6)     | 17<br>(4) | 15<br>(4) | 18<br>(4) | 21<br>(5) | 23<br>(3) | 14<br>(1) | 15<br>(1) | 15<br>(1) | 15<br>(1) | 310<br>(75) |

○世代別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

| 年度 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | 計   |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1世 | ★   |     |     | 1   | 2   | 1   |     | 1   |     |     | 1   |     | 1   |     |     | 7   |
| 2世 | 26  | 5   | 6   | 6   | 3   | 14  | 5   | 2   | 5   | 8   | 8   | 5   | 2   | 5   | 3   | 103 |
| 3世 | 21  | 8   | 10  | 8   | 9   | 13  | 8   | 5   | 8   | 7   | 8   | 4   | 6   | 7   | 4   | 126 |
| 4世 | 3   | 7   | 3   | 2   | 3   | 5   | 4   | 7   | 5   | 5   | 6   | 5   | 6   | 3   | 8   | 72  |
| 5世 |     |     |     |     |     | 1   |     |     |     | 1   |     |     |     |     |     | 2   |
| 計  | 50  | 20  | 19  | 17  | 17  | 34  | 17  | 15  | 18  | 21  | 23  | 14  | 15  | 15  | 15  | 310 |

○海外参加者の男女別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

| 年度 | H13     | H14 | H15 | H16 | H17 | H18     | H19 | H20 | H21 | H22 | H23     | H24 | H25 | H26 | H27 | 計   |
|----|---------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男子 | ★<br>30 | 9   | 5   | 7   | 6   | ★<br>15 | 6   | 4   | 6   | 9   | ★<br>10 | 6   | 6   | 6   | 7   | 132 |
| 女子 | 20      | 11  | 14  | 10  | 11  | 19      | 11  | 11  | 12  | 12  | 13      | 8   | 9   | 9   | 8   | 178 |
| 計  | 50      | 20  | 19  | 17  | 17  | 34      | 17  | 15  | 18  | 21  | 23      | 14  | 15  | 15  | 15  | 310 |

(2) これまでの県内・県外参加者内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○学生別内訳

※青年リーダーは含まない

| 年度  | H13    | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | 計   |
|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小学生 | ★<br>9 |     |     |     |     | ★   |     |     |     |     | ★   |     |     |     |     | 9   |
| 中学生 | 24     | 13  | 7   | 5   | 4   | 11  | 4   | 1   | 5   | 6   | 7   | 2   | 3   | 5   | 4   | 104 |
| 高校生 | 17     | 11  | 18  | 15  | 15  | 22  | 13  | 11  | 13  | 15  | 17  | 12  | 12  | 11  | 12  | 214 |
| 計   | 50     | 24  | 25  | 20  | 19  | 33  | 17  | 15  | 18  | 21  | 24  | 14  | 15  | 16  | 16  | 327 |

○県内・県外参加者の男女別内訳

※青年リーダーは含まない

| 年度 | H13     | H14 | H15 | H16 | H17 | H18    | H19 | H20 | H21 | H22 | H23    | H24 | H25 | H26 | H27 | 計   |
|----|---------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男子 | ★<br>15 | 6   | 4   | 4   | 5   | ★<br>7 | 3   | 3   | 4   | 3   | ★<br>4 | 2   | 3   | 3   | 1   | 70  |
| 女子 | 35      | 18  | 21  | 16  | 14  | 26     | 14  | 12  | 14  | 18  | 20     | 12  | 12  | 13  | 12  | 257 |
| 計  | 50      | 24  | 25  | 20  | 19  | 33     | 17  | 15  | 18  | 21  | 24     | 14  | 15  | 16  | 16  | 327 |

(3) これまでの参加者合計 (海外、県内・県外)

○参加者合計

| 年度    | H13     | H14 | H15 | H16 | H17 | H18     | H19 | H20 | H21 | H22 | H23     | H24 | H25 | H26 | H27 | 計   |
|-------|---------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 海外    | ★<br>50 | 20  | 19  | 17  | 17  | ★<br>34 | 17  | 15  | 18  | 21  | ★<br>23 | 14  | 15  | 15  | 15  | 310 |
| 県内・国内 | 50      | 24  | 25  | 20  | 19  | 33      | 17  | 15  | 18  | 21  | 24      | 14  | 15  | 16  | 16  | 327 |
| 計     | 100     | 44  | 44  | 37  | 36  | 67      | 34  | 30  | 36  | 42  | 47      | 28  | 30  | 31  | 31  | 637 |

※本報告書の内容を許可なく複写・複製・転載・翻訳をすることを禁じます。

平成27年度「ウチナージュニアスタディー」事業実施報告書

沖縄県

<受託者>

平成27年度ウチナージュニアスタディー事業にかかる共同企業体

公益社団法人 青年海外協力協会 沖縄事務所

特定非営利活動法人 万国津梁人財ネットワーク

東武トップツアーズ株式会社 沖縄支店

